

はじめに、この小冊子について

世田谷の住民まちづくり活動を応援する基金、「世田谷まちづくりファンド」は、2012年12月に20周年を迎えました。(財)世田谷トラストまちづくりでは、その節目に、世田谷の住民まちづくりやファンドのこれまでの成果を整理し、また、それらの今後の在り方を考えるため、二つの取り組みを行ってきました。ひとつは、20年間蓄積されてきたファンド関係の様々な資料やデータ分析とファンド助成グループの現在の活動実態調査です。もうひとつは、その結果を活用しつつ、ファンドを含めた今後の世田谷の住民まちづくりを考えるための、住民

参画によるイベント「ファンドが拓いた世田谷のまちづくり」の企画・開催です。半年間の準備を経て、12月1、2日の二日間にわたり、下記のようなプログラムを実施しました。

この小冊子は、このイベントに向けて準備したことや当日話し合われたことなどを簡潔にまとめたものです。本誌が新しい世田谷のまちづくりを創造してゆくきっかけになることを願います。

2013年3月
(財)世田谷トラストまちづくり

ファンド20周年記念イベント 「ファンドが拓いた世田谷のまちづくり」 プログラム

(会場：キャロットタワー4F生活工房ワークショップルームA・B)



12月1日(土) 開場13:00～

15:00～18:00

プログラム1

「世田谷まちづくりファンド20年を年表で振り返ろう！」 (p4)

進行役：井上赫郎((株)まちづくり研究所)、市川徹((株)世田谷社)

18:00～21:00

プログラム2

若者ノカタリバ「俺の、私のやっていることってまちづくり?!」 (p18)

進行役：小原美穂(博報堂生活研究所上席研究員)

12月2日(日) 開場10:00～

11:00～12:00

プロローグ～市民まちづくりの歩みと今

12:00～13:00

ランチで交流

13:00～16:00

プログラム3

「ファンドでつくるユートピア?!」を語ろう (p20)

進行役：伊藤雅春(NPO法人玉川まちづくりハウス)

16:00～17:30

プログラム4:

みんなで選ぼう!! あったらいいな、こんな市民プロジェクト (p22)

進行役：林美栄子(わいわいコミュニティ・たまがわ)

18:00～20:00

お楽しみ交流会

プレイベント

まちづくり活動現場ツアー (p24)

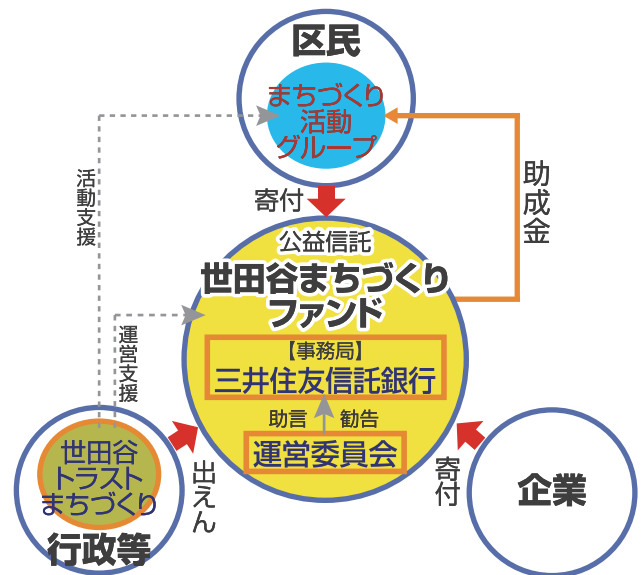
梅丘周辺(11/17)、玉川田園調布周辺(11/21)、野沢周辺(11/28)

0. 世田谷まちづくりファンドの基礎知識

「世田谷まちづくりファンドっていったい何?」「名前は聞いたことはあるけど…」という人のために、世田谷まちづくりファンドの基礎知識をご紹介します。

「世田谷まちづくりファンド」とは

- '92(平成4)年、公益信託制度を用いて設けた基金
- 区民の創意と工夫にあふれたまちづくりを促進し、だれもが安心して暮らせる人間性豊かで魅力的なまちを創造することを目的に、地域の発想に根ざした区民主体のまちづくり活動に対する助成事業を行うもの
- (財)世田谷トラストまちづくりの前身、(財)世田谷区都市整備公社(委託者)が資金を出し、三井住友信託銀行(前中央三井信託銀行、受託者)が事業を実施
- 設立当初は、区民・企業・行政の三者からの寄付や資金を合わせて大きく育ててゆく構想があった



○運営に携わる主体

- 1) 三井住友信託銀行：財産の管理・運用と助成事業の運営
- 2) 運営委員会：助成先の選考などについて助言・勧告
- 3) 信託管理人：資産の管理・運用や各年度の事業計画・事業報告の承認
- 4) 世田谷トラストまちづくり
 - ①助成応募にあたっての支援
 - ②活動支援(広報支援/ネットワーク支援/ノウハウ支援)

助成事業の運営について

- 1) 公開審査会方式による助成決定(写真左)
選考プロセスの透明性を確保するため、公開の場で運営委員と応募グループ間のやりとりに基づき、助成先・金額を決定
- 2) 「学びあい育ちあう場」としての運営(写真中央)
活動グループ相互の情報交換や学習の場、他グループとのネットワーク形成の機会として、活動発表会の開催
- 3) 市民サポーターによるファンド支援(写真右)
「まちづくり広場」などの市民サポーターが参画し、発表会・交流会などを企画・運営

【図】ファンドのしくみ

運営委員(会)とは

- 運営委員会は、毎年の助成事業の進め方、助成先・金額などを受託者に助言・勧告する主体
- 運営委員長は現在4代目、委員は20年間で全45人
- 各分野の専門家や活動者などから構成され、過去にファンドの助成を受けた「卒業生」も、世田谷区の都市整備部長も一員

世田谷まちづくりファンド助成事業のひとコマ



公開審査会



活動発表会



審査会で司会をする市民サポーター

1. 世田谷まちづくりファンド20年を 年表で振り返ろう！

ここでは設立の前史から現在までの「世田谷まちづくりファンド」に関連する出来事を年表にまとめました。またそれに関連する世田谷トラストまちづくりや世田谷区の動き、世の中の大きな出来事も合わせて掲載しています。20年間の大きな流れの概要をつかみやすくするため、歴代の4名の運営委員長の就任期間毎に各時期の特徴をまとめました。

- イベントでは、この「年表」とファンド助成事業の実績や助成活動、グループの実態などをまとめた「グラフ」（後述）について、情報を共有した上で、ファンド構想時の振り返りや、その後の住民まちづくりとファンドの関係、今後のファンドの在り方などについての議論がありました。
- 年表の下に掲載されているのは、当日の話し合いで出てきた意見や情報を会場で書き起こした"ファシリテーション・グラフィック"です。

ファンドの応援してきた活動【下表】

- ファンドは毎年の助成事業において、応援したいまちづくり活動を部門として設定し募集してきました
- 部門は時代のニーズを反映して度々再編されています



年度	部門構成			
'92	活動企画コンペ実施			
'93	93年度創設 まちづくり活動部門	93年度創設 まちづくりハウス部門	93年度創設 まちづくり交流部門	
'96	96年度創設 はじめの一步部門			
'02			'02年度廃止 '02年度創設 特別テーマ部門	
'06		'06年度休止 '06年度創設 まちを元気にする拠点づくり部門		
'12			'12年度創設 災害対策・復興まちづくり部門	'12年度創設 10代まちづくり部門

※地域に根ざし、特定の専門的技術や経験を活かし、住民主体のまちづくりを継続的に支援・実践する非営利の組織

地域の多様なネットワークを形成し、環境共生や地域共生のまちづくりやコミュニティの課題解決力を高める拠点づくりの整備事業への助成

世田谷で住民主体のまちづくりの実績があり、東日本大震災への復興活動を行っているグループが活動を通して世田谷のまちづくりへの災害復興・対策に関する知識・経験・成果を還元し、区民と分かち合う活動に助成

10代の皆がまちづくりの主役になる、地域やまちをよくする活動に助成

前史	
世田谷まちづくり ファンド 	<ul style="list-style-type: none"> ■世田谷ボランティア連絡協議会発定(1975) ■鳥山寺町環境協定/第1回雑居まつり(1976) ■羽根木プレーパーク開設(1979)
世田谷トラスト まちづくり (旧まちづくりセンター、 旧トラスト協会) 	
世田谷区 	<ul style="list-style-type: none"> ■地方自治法改正にともなう区長公選の実施(1975) ■基本構想・基本計画策定/北沢・太子堂地区で参加型まちづくり開始(1979) ■(財)世田谷区都市整備公社設立(1980) ■世田谷ボランティア協会発定(1981) ■都市デザイン室発定/世田谷区街づくり条例制定(1982) ■せたがや百景・せたがや界隈賞選定/建築協定(1984) ■都市整備方針策定(1985) ■まちづくりセンター設立調査開始(1987) ■まちづくりリレーイベント開始/まちづくり地域担当制(1988) ■第1回まちづくりコンクール/まちづくりハウス開設(1988) ■世田谷トラスト協会設立(1989) ■ねこじゃらし公園ワークショップ(1991) ■地域行政制度開始/まちづくりセンター構想案策定(1991)
世の中 	<ul style="list-style-type: none"> ■大阪万博開催(1970) ■沖縄返還(1972) ■オイルショック(1973) ■地方自治法改正(区長公選・固有職員・権限委譲)(1974) ■都市計画法改正(地区計画)(1980) ■ワンルームマンション増加(1982) ■ソ連崩壊/生産緑地法改正/バブル経済崩壊(1991)

最初の発想

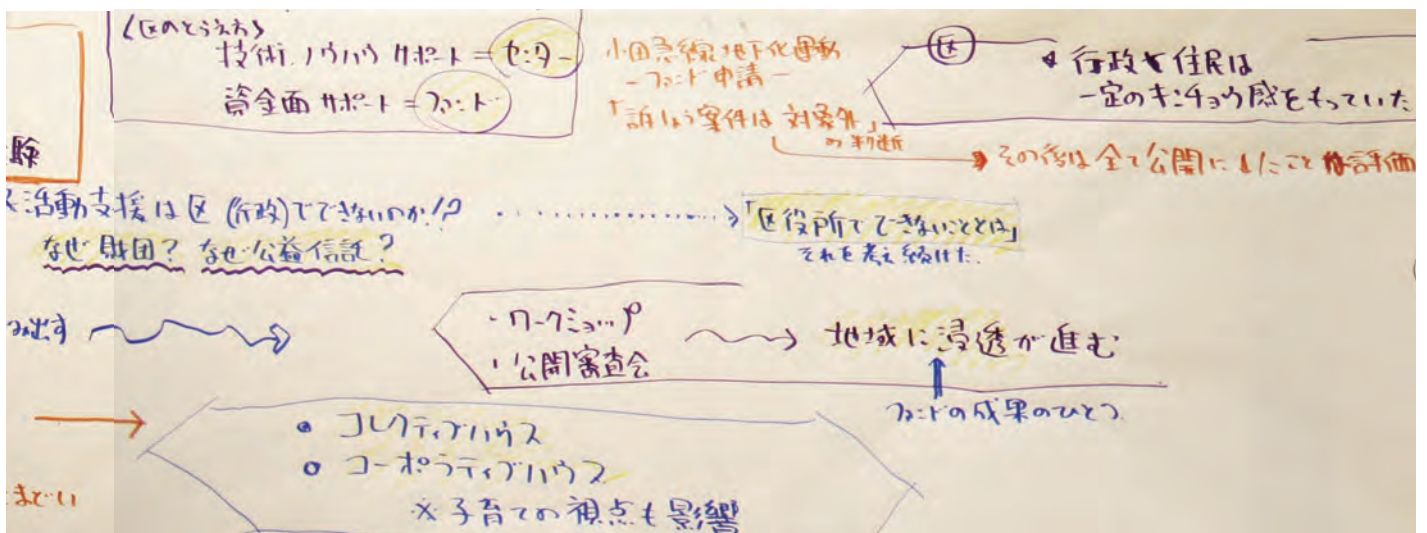
Handwritten notes and diagrams illustrating the initial vision and the "Windows of Opportunity" concept.

Handwritten notes: "最初の発想", "Window of Opportunity (機会の窓)", "まちづくりの原点", "区のおおくり", "協賛会", "住民", "行政", "企業", "専門家", "当初の状況", "最初は..."

延藤運営委員長時代 (1992 ~ 1997年)

「注目の中ファンドが立ち上がる、運営スタイルの確立へ」…バブルの終わりだがまだ財政的に余裕のあるとき
 公開審査会スタイルの提起と実践 / はじめの一步部門の設置 / 市民によるファンド支援の動き (まちづくり
 フォーラム、タレントバンク) / まちづくり活動支援や交流ネットワーク形成をめざす活動グループの多さ /
 子育て分野の活動グループの台頭 (子育て支援環境の整備が始まる)

1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年
まちづくり活動 企画コンペ ■公益信託世田谷ま ちづくりファンド設定 ■世田谷まちづくり フォーラム設立	第1回ファンド 助成事業 ■初代運営委員長: 延藤安弘氏就任 ■「まちづくり活動部門」 「まちづくりハウス部門」 「まちづくり交流部門」設置 ■世田谷まちづくり ファンド協力スタッフ設置	第2回ファンド 助成事業	第3回ファンド 助成事業 ■運営委員改選 ■第1回世田谷ま ちづくりファンド支援 コンサート開催 ■ファンド協力スタッ フ会議開催	第4回ファンド 助成事業 ■運営委員改選 ■「はじめの一步部門」設置 ■世田谷まちづくり タレントバンク発足 (~1998?)	第5回ファンド 助成事業 ■運営委員改選 ■まちづくり広場設立 ■「世田谷の市民街づく り史をひも解くリレ ーフォーラム」開催 ■第2回世田谷ま ちづくりファンド支援 コンサート開催
■まちづくりセンター発足 (都市整備公社内の係) ■世田谷まちづくり ファンド信託契約締結、 当初信託金拠出 ■「結んでひらいて」創刊 ■まちづくりコンクール (~1995)	■初代所長: 卯月盛夫氏就任 ■まちづくりセンター 「課」に昇格 ■まちづくりファンドへ 追加信託(~2010) ■「参加のデザイン道具 箱」発行	■新都市整備方針: 区民提案セミナー運営 ■北沢川緑道改修: 住民参加運営(~1998)	■2代目所長: 春日敏男氏就任 ■「まちセン新聞」創刊 (~2007) ■デイホーム玉川田園調布: 住民参加運営(~1997) ■瀬戸市派遣職員受け入れ (~2000)	■3代目所長: 折戸雄司氏就任 ■「住まいづくり学校」 開催(~2008) ■「親子Cityアドベン チャー」開催(~1998) ■「参加のデザイン道具箱 II」発行 ■「まちづくりハウスって 何だろう?」発行 ■緑地管理機構の指定 (※トラスト協会)	
■世田谷区基本構想審議会 設置 ■生産緑地地区の都市 計画決定 ■学校週5日制実施	■第3セクター活性化 方針策定	■世田谷区基本構想議決 ■新基本構想・新都市整備 方針策定 ■環境基本条例策定	■区議会・区長選挙実施、 区長に大場啓二氏再選 ■基本計画・実施計画 スタート ■福祉のいえ・まち推進 条例制定 ■街づくり条例改正 ■阪神・淡路大震災に 支援隊派遣	■北沢川緑道第1期工区 オープン ■三軒茶屋再開発ビル 「キャロットタワー」 オープン ■(財)コミュニティ振興 交流財団設立 ■行財政改善推進方針・ 行動計画策定 ■一時的保育事業開始	■世田谷文化生活情報 センターの開設 ■深沢環境共生住宅竣工 ■公共施設利用案内 システム「けやきネット」 稼働開始
■都市計画法改正 (市町村マスタープラン) ■Windows3.1発売	■細川(日本新党)内閣発足 ■サッカーJリーグ開幕	■羽田(新政党)内閣発足 ■村山(社会党)内閣発足 ■平均世帯人員が3人を 切る(2.95人)	■阪神・淡路大震災発生 ■地下鉄サリン事件 ■Windows95発売 ■PHS発売 ■東京・大阪でタレント 知事誕生	■橋本(自民党)内閣発足 ■使い捨てカメラ「写ルン です」発売 ■スターバックス銀座1 号店開店	■北海道拓殖銀行・山一 証券倒産 ■就職協定廃止 ■消費税実施(5%)

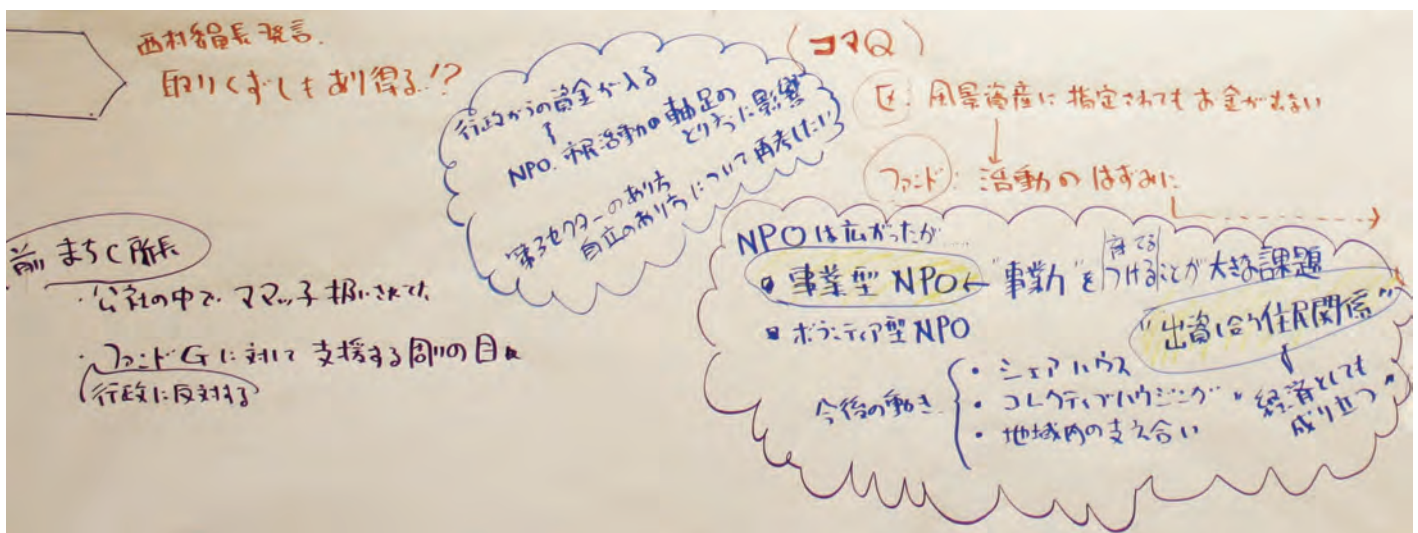


西村運営委員長時代 (1998 ~ 2003年)

「周囲の環境の変化により助成活動のテーマが多様に」 …阪神淡路大震災の影響とバブル後の不景気

交流部門に代わり特別テーマ部門設置 / 全国各地に同様のまちづくりファンドの誕生(世田谷をモデルに) / ぶりっじ世田谷による市民活動の横のネットワークづくり / NPO法成立と市民活動推進課によるNPO支援策の展開 / 風景づくり条例の制定による風景づくり活動団体の申請増 / 介護保険制度の開始に伴う介護計福祉団体の事業化

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
ファンド	第6回ファンド助成事業 ■2代目運営委員長: 西村幸夫氏就任 ■運営委員改選	第7回ファンド助成事業 ■運営委員改選 ■第3回世田谷まちづくりファンド支援コンサート開催	第8回ファンド助成事業	第9回ファンド助成事業 ■運営委員改選 ■第4回世田谷まちづくりファンド支援コンサート開催	第10回ファンド助成事業 ■「まちづくり交流部門」廃止 ■「特別テーマ部門」設置	第11回ファンド助成事業 ■運営委員改選 ■第5回世田谷まちづくりファンド支援コンサート開催
イベント	■「世田谷まちづくりファンドによる住民活動支援の評価調査」実施 ■「参加のデザイン道具箱Ⅲ」発行	■2係制に変更: まちづくり支援係/防災街づくり係 ■「ファンドが拓くまちづくり」発行 ■「まちづくりフィールドマップ」発行 ■「参加のまちづくり国際交流シンポジウム」開催 ■「Teen's 編集部」開催 (~2003)	■ぶりっじ世田谷2000: 実行委員会事務局 ■世田谷区エコビレッジ構想: 住民参加運営(~2002) ■すみれば自然庭園: 住民参加運営(~2003)	■4代目所長: 板谷雅光氏就任 ■三宿の森緑地: 住民参加運営(~2004)	■小学校改築子どもワークショップ運営(~2008) ■「参加のデザイン道具箱Ⅳ」発行 ■世田谷区研修生受け入れ(~2003)	■5代目所長: 小野村登氏就任 ■「世田谷線の車窓からアイデアコンクール」(~2004)
世田谷区	■風景づくり条例制定 ■行政改革推進条例施行 ■みどりの基本計画策定 ■(財)スポーツ振興財団設立	■区議会・区長選挙実施、区長に大場啓二氏再選 ■総合支所に街づくり部を設置、都市整備関連の事務を大幅に移管 ■産業振興基本条例制定	■市民活動推進課の設置 ■二子玉川再開発都市計画決定	■都市マスタープラン策定 ■子ども条例制定	■「市民活動支援事業(自立促進事業、協働促進事業)」開始(※市民活動推進課) ■「地域の支えあい活動助成」開始(※世田谷区社会福祉協議会) ■「世田谷区民活動中間支援機関連絡会」発足 ■安全安心まちづくり条例施行	■区議会・区長選挙実施、区長に熊本哲之氏当選 ■(財)せたがや文化財団設立 ■すぐやる課の設置 ■区の24時間安全パトロール、区民の地域安全安心まちづくり活動支援事業等を開始
世の中	■小淵(自民党)内閣発足 ■特定非営利活動促進法成立 ■学習指導要領改定(H14~) ■Windows98発売	■東海村臨界事故発生 ■改正住民基本台帳法成立 ■65歳以上人口が2千万人を超える	■森(自民党)内閣発足 ■介護保険制度施行 ■携帯電話に「カメラ・音楽再生機能」	■小泉(自民党)内閣発足 ■地方分権一括法制定 ■アメリカ同時多発テロ事件発生 ■「iPod」発売 ■携帯電話に「GPS機能」	■都市計画法改正 ■公立学校完全週5日制実施 ■住民基本台帳ネットワーク施行	■個人情報保護法成立 ■イラク戦争勃発 ■サラリーマンの医療費負担が3割に ■出生率が1.3を切る(1.29)

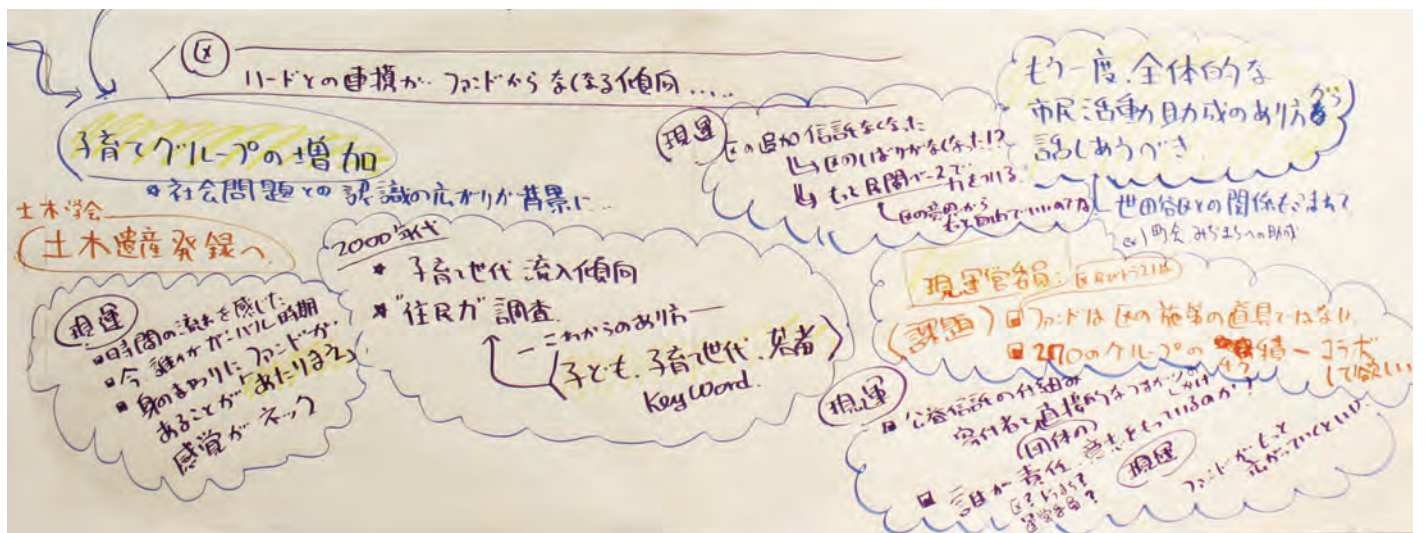


石塚運営委員長時代 (2004 ~ 2009年)

「次世代ファンド Manifesto の提案と新たな取り組み」 … 少子高齢化、団塊世代の地域参加

ファンド事業の地域説明会開催による新規応募団体の掘り起こし / まちづくりハウス部門の休止、まちを元気にする拠点づくり部門の創設 / 生涯現役推進課による助成制度、子ども部による子ども基金の設置 / より安全な食・農業への市民の関心の高まり / インターネット・携帯の普及

2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
第12回ファンド助成事業 ■3代目運営委員長: 石塚雅明氏就任	第13回ファンド助成事業 ■運営委員改選 ■特別テーマ部門のテーマが「ネット文庫制作」に ■民都機構より助成金5000万円交付	第14回ファンド助成事業 ■次世代ファンド Manifesto 提案 ■「まちを元気にする拠点づくり部門」設置 ■「まちづくりハウス部門」休止	第15回ファンド助成事業 ■運営委員改選 ■区政75周年ファンド 運営委員会表彰	第16回ファンド助成事業	第17回ファンド助成事業 ■運営委員改選 ■運営委員有志による合宿開始
■6代目所長: 伊佐茂利氏就任 ■「こちらセタガヤ暮らし研究所」開催 ■国分寺産線啓発プロジェクト: 住民参加運営(~2006)	■7代目所長: 浅海義治氏就任 ■ファンド事業地域説明会開催(~2009) ■はじめの一步ウェルカム懇談会スタート ■次世代ファンド検討WS開催 ■住民参加型まちづくりファンド支援事業(民都機構)に助成申請 ■安藤忠雄講演会運営協力: 参加費全額ファンド寄付(~2008, 2010) ■地域共生のいえづくり支援事業スタート ■小さな森制度スタート(*トラスト協会)	■都市整備公社とトラスト協会が統合、(財)世田谷トラストまちづくり発足 ■まちづくりセンター及びトラスト事業はトラストまちづくり課に継承 ■「トラストまちづくり大学」スタート ■「トラストフォーラム」開催	■「まちの力」世田谷まちネットワーク研究会参加(~2008) ■「学生インターン制度」スタート ■「まちの小さな、新しい公共空間をつくろうシンポジウム」開催	■「ひと・まち・自然」創刊 ■「市民まちづくり・都市ネットワーク会議」スタート	■「ネットワーク形成イベント」開催(~2010) ■世田谷市民活動支援会議スタート ■区民と考える街づくり条例フォーラム: 住民参加運営
■基本計画・実施計画・行政改革計画策定 ■子ども部を設置 ■みどりの基本条例改正 ■世田谷ものづくり学校開校 ■なかまちNPOセンター開設	■従来の出張所を、出張所及びまちづくり出張所に再編 ■総合支所街づくり部の解消 ■「地域コミュニティ推進事業」開始 ■国分寺産線保全整備条例施行	■みどりとみず政策担当部の設置 ■生涯現役推進課の設置 ■(財)世田谷区産業振興公社設立 ■子ども基金創設 ■文化・芸術振興計画策定 ■「せたがやスピリッツ(世田谷みやげ)」発行 ■みどりと花いっぱい運動	■区議会: 区長選挙実施、区長に熊本哲之氏再選 ■世田谷区制施行75周年記念事業の開催 ■せたがや自治政策研究所の設置 ■みどりとみずの基本計画策定 ■景観行政団体となり「風景づくり条例」改正 ■世田谷区産業ビジョン及び世田谷区産業振興計画の策定	■「地域の絆再生支援事業」の実施(*市民活動推進課) ■区民利用施設(集会施設、スポーツ施設)使用料の改定 ■世田谷区建築物安全安心実施計画策定 ■ユニバーサルデザイン推進計画策定 ■世田谷区農業振興計画の策定 ■せたがやみどり33の推進	■総合支所新庁舎・成城ホール開設 ■文化・国際・男女共同参画課を、文化・国際課と男女共同参画担当課に再編 ■「まちづくり出張所」を「まちづくりセンター」に名称変更 ■新せたがやアートプラン(文化・芸術振興計画調整計画)の策定
■新潟県中越地震発生 ■裁判員制度成立 ■日本の人口が1億2682万人に(増加率最低の0.11%) ■スマトラ沖地震発生 ■世界人口が63億人を突破	■景観法制定 ■個人情報保護法施行 ■愛知万博開催 ■携帯電話人口普及率68.1%に ■JR宝塚線脱線事故発生	■安部(自民党)内閣発足 ■出生率1.26、過去最低を記録 ■ライブドア事件発生 ■ワンセグ放送開始	■福田(自民党)内閣発足 ■信託法改正 ■新潟県中越沖地震発生 ■団塊世代の定年退職問題 ■100歳以上3万人を超える	■麻生(自民党)内閣発足 ■公益法人制度改革 ■秋葉原通り魔事件 ■iPhone発売 ■年越し派遣村	■鳩山(民主党)内閣発足 ■衆院選で民主党勝利、政権交代へ ■行政刷新審議会の事業仕分け ■裁判員制度開始 ■Windows7発売



土肥運営委員長時代 (2010年～)

「環境の変化に合わせたファンド運営の見直しと新部門設置」 …東日本大震災、地域の絆の強調
 10代まちづくり部門、災害対策・復興支援部門の創設 / 世田谷区及び世田谷トラストまちづくりからの追加信託の休止 / 信託銀行と世田谷トラストまちづくりとの役割分担の明確化 / ファンド寄付金額の低迷 (2011年度は2万5千円) / アート系の活動グループの増加

	2010年	2011年	2012年
ファンド	第18回ファンド助成事業 ■4代目運営委員長: 土肥真人氏就任	第19回ファンド助成事業 ■中間発表会を財団主催「まちづくり交流会」に変更 ■公開審査会と最終活動発表会の同日開催 ■助成事業の手引き・申請書の簡略化	第20回ファンド助成事業 ■「災害対策・復興まちづくり部門」設置 ■「10代まちづくり部門」設置
メディア	■世田谷まちづくりファンド助成グループ追跡調査(～2012) ■地域環境保全功労者表彰(環境大臣)	■「世田谷まちづくり交流会」スタート ■世田谷まちづくりファンドへの追加信託休止 ■「参加のデザイン道具箱」自治体優秀グッズ賞(日本都市計画学会)	■新公益法人移行に向けた財団寄付行為の変更 ■「ファンドがひらいた世田谷のまちづくり」開催
世田谷区	■街づくり条例改正	■区議会・区長選挙実施、区長に保坂展人氏当選 ■東日本大震災復興支援 ■世田谷区基本構想審議会設置 ■「地域の絆推進事業」実施(※市民活動推進課)	
世の中	■菅(民主党)内閣発足 ■九州南部で口蹄疫の感染 ■「iPad」発売 ■子ども手当支給始まる ■高齢者の所在不明多数発覚 ■スマートフォンブーム(新規販売台数の約半数を占める)	■東日本大震災発生 ■野田(民主党)内閣発足 ■福島第一原発で国内初の炉心溶融 ■NPO法改正、認定NPO法人制度スタート ■日本の人口が1億2535万人に(1970年以来初の減少)	■東京スカイツリー開業 ■石原都知事辞職、都知事選挙へ ■衆議院解散、総選挙へ

今後の課題や展望

(20周年記念イベントで出された意見を抜粋・整理)

20年間の「慣れ」の脱却と「蓄積」の活用を

- 現在は「ファンドがあるのが当たり前」という感覚になっている
- これまで270超の助成グループの蓄積があり、それらをどうコラボさせていくかが課題

NPOの自立や事業型NPOの育成を

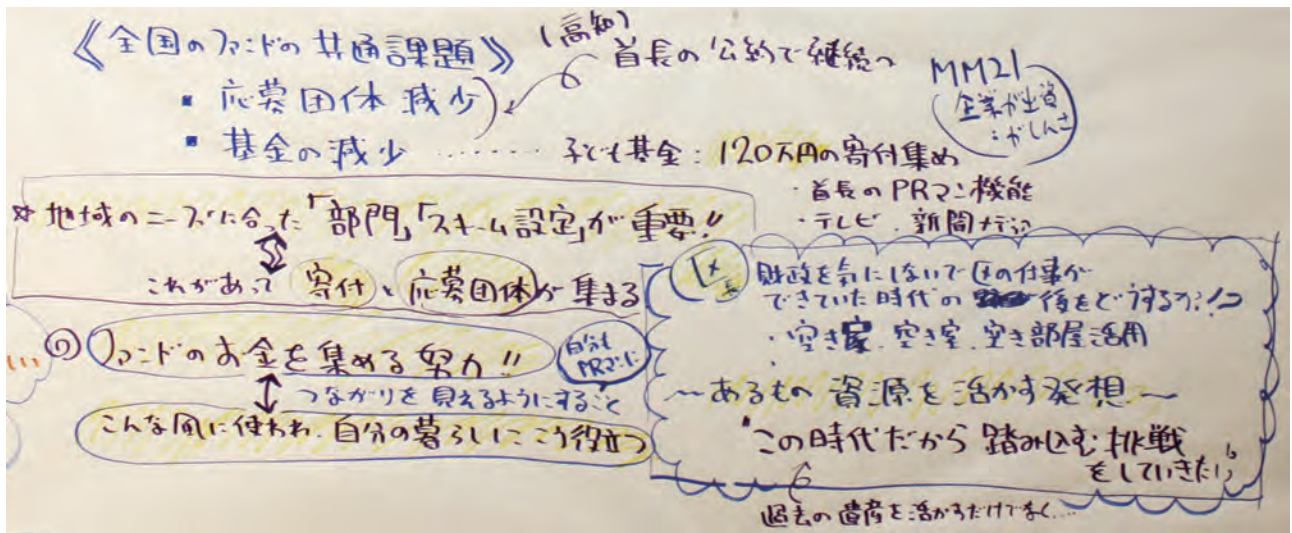
- NPOの自立のあり方を再考し、事業型NPOを育てることが課題
- 今後は、シェアハウス、コレクティブハウジング、地域内の支え合いなどが増えると考えられ、それらを新しい活躍の機会に
- 出資し合う住民関係があれば経済として成立

ファンドレイズのために必要なこと

- 地域のニーズに合った「部門」や「制度設計」があってこそ、寄付や応募団体が集まる
- 「寄付集め」と「こう使われ、自分の暮らしにこう役立つ」の繋がりの見える化が大切
- 公益信託の仕組みの中で、寄付者と活動グループが直接繋がる仕掛けづくりは難しい

ファンドや市民活動支援の在り方の議論を!

- ファンドをこれからどうするか、運営委員のみならず、これまでの助成グループなどを含め、幅広く基金の使い道について議論を深めてゆく必要がある
- もう一度、区との関係も踏まえ、市民まちづくり活動支援全体のあり方から話し合うべき



2. データで読み解くファンド

ここでは、○ファンド助成事業と基金の20年間のあゆみ、○ファンド助成グループや活動の実績、○ファンド助成後のグループの活動の実態を、ファンド関係のデータ、

審査会や発表会でのグループ制作資料、助成グループに実施したヒアリング調査結果などをもとに集計・分析してみました。(11年度調査結果より作成)

1) ファンド助成事業の20年のあゆみ

- 20年間で応募件数は約700件、助成件数は517件、助成金総額は1億円を超える
- 助成したのは全276グループで、そのメンバー数の総計は延べ6千人以上
- 部門別には「まちづくり活動部門」と「はじめの一步部門」の助成件数が多い

20年間で残した実績【表1】

- 応募件数は平均で毎年33.0件、助成件数は24.6件で、採用率は約74%
- 助成グループ数は276、毎年平均13程度の新しいグループが加わっている
- 助成総額は1億円を超え、平均毎年5百万円程度
- 1件最大5百万円を助成する、『まちを元気にする拠点づくり部門』のハード整備助成額を合わせると、1億5,232万円を助成してきた
- 全助成グループのメンバー数を合計すると、3千人を超え、延べ数では6千人以上が活動に加わった

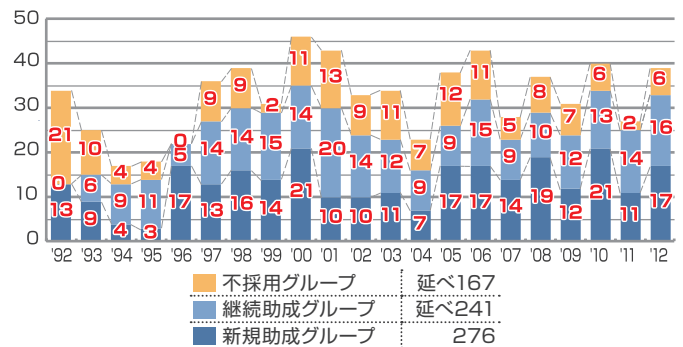
毎年の応募・助成状況【図1・2】

- 各年度の応募は17～46件、助成は13～35件と年度によってかなりの幅がある
- 応募件数が大きく減少したことが、二回('94～'95と'04)あったが、応募の敷居を下げる『はじめの一步部門』創設や「運営委員が地域に出向いて行う応募説明会」の開催などにより盛り返した
- 部門別に見ると、助成件数が多いのは、「まちづくり活動部門」、次いで「はじめの一步部門」となっている
- 応募・助成グループ数の経年変化をみると、「はじめの一步部門」の助成団体が少ない年には、応募・助成グループとも少なくなっている

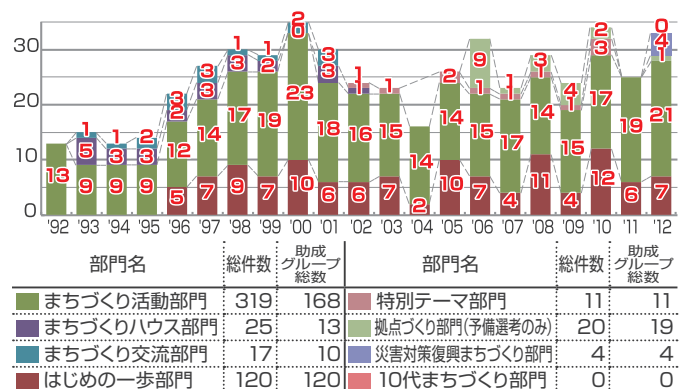
【表1】 ファンド助成事業20年間の実績一覧 ※1・2

項目	実績
応募件数	694件
助成件数	517件
応募グループ数	415グループ
助成グループ数	276グループ
応募グループ申請総額	2億234万円
助成グループ申請総額	1億4,928万円
助成総額	1億752万円
助成グループのメンバー数※3	延べ6,200人

※1 '92年の活動企画コンペも含む、'12年の第20回助成事業まで
 ※2 「拠点づくり部門」のハード整備分は件数・グループ数・金額から除外
 ※3 助成グループの応募書類から推計したもの



【図1】 応募/助成(新規・継続)/不採用グループ数の推移



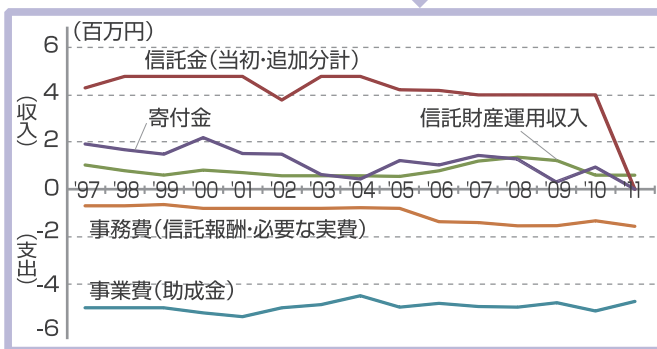
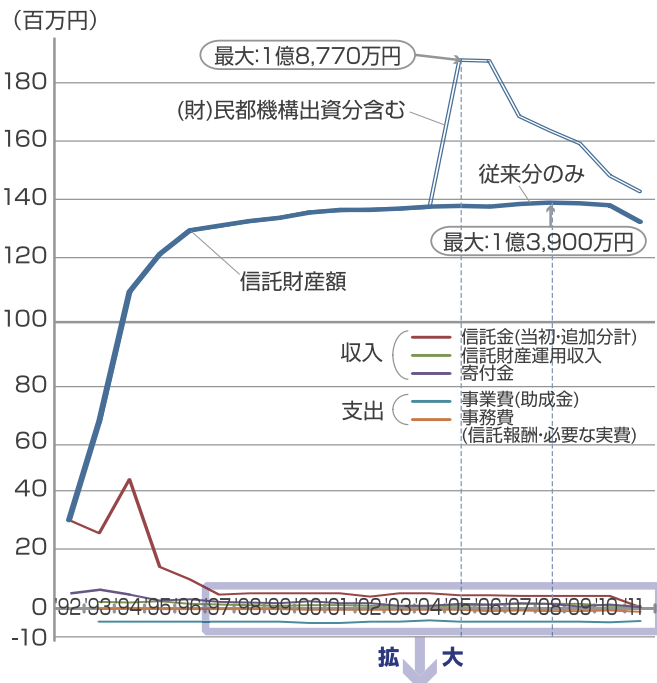
【図2】 部門別助成グループ数の推移

2) ファンドへの寄付は？ファンドの財産額は？

- ファンドの財産額は、'08年の1億3,900万円をピークに減少時代に入
- 財産の主な減少理由は、追加信託金の休止、事務費支出の増加、寄付金の減少など
- ファンドへの寄付は、初期5年は200万円を越えていたが、近年は低迷傾向で、'11年は2万5千円に

ファンドの財産の状況【図3】

- '96年までは信託金の上積みにより急増してゆき、以降は少しずつ増加
- '08年、従来基金の財産額は1億3,900万円と最大に
- ハード整備用資金として国交省外郭団体の(財)民間都市開発推進機構から拠出された資金を含むと、財産総額の最大値は'05年の1億8,770万円
- '09以降は減少し始め'11年には大幅に減少した
- 近年財産が減少してきているのには、以下のような理由がある
 - ①事務費の支出が増加したため
 - ②財政難により追加分の信託金が'11年になくなり、収入が減ったため
 - ③低金利により、財産運用収入が停滞したため
 - ④寄付金が少なくなったため

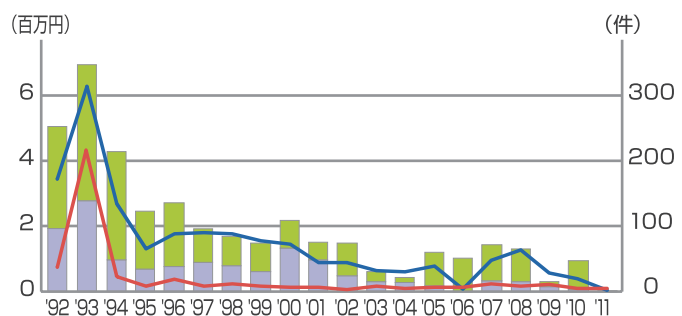


【図3】 ファンドの信託財産額と主な収支の推移

※寄付額に(財)民間都市開発推進機構からの5千万円分は含まず

ファンドへの寄付の状況【図4】

- ファンドは寄付を集めながら、基金を大きく育ててゆく構想をもっていた
- 20年間の寄付総額は3,912万円(1,825件)で、法人から2,515万円(377件)、個人から1,397万円(1,448件)を集めた((財)民間都市開発推進機構の出資金5,000万円を含まず)
- 当初はチャリティコンサート開催などの積極的な寄付集めの取り組みが行われ、毎年200万円を超えていた
- 以降は減少し、'04、'09年度の二度の谷を経て、'11年度に3件、2万5千円と過去最少件数・額を更新



金額(万円)	最多時('93年)	最少時('11年)	件数(件)	最多時('93年)	最少時('11年)
個人	279	0.5	個人	312	1
法人	415	2	法人	216	2
金額小計	694	2.5	件数小計	528	3

【図4】 ファンドへの寄付の件数と金額の推移

※(財)民間都市開発推進機構から出資の5千万円分は含まず



3) 助成を受けたのはどんなテーマや内容の活動か？

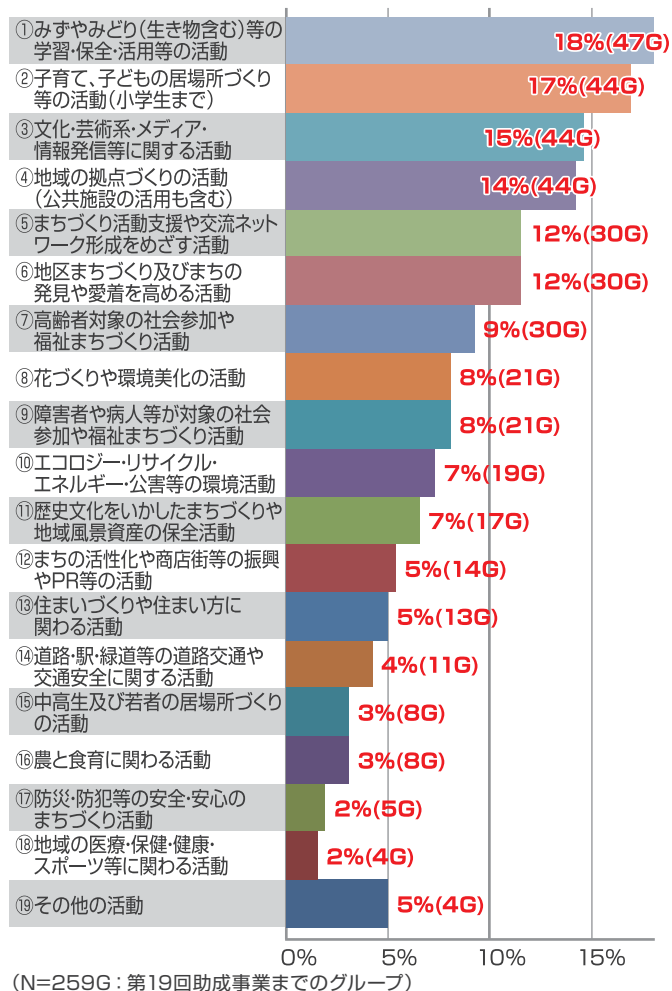
- 多くに取組まれるテーマは、「みずやみどり」、「子育て、子ども」、「文化・芸術」「拠点づくり」
- 当初は「まちづくり活動支援等」が最も多く、その後「子育て」と「文化・芸術」が増加
- 活動の内容で多いのは「普及・啓発・人づくり」で、6割のグループが実施

助成グループの活動テーマ【図6・7】

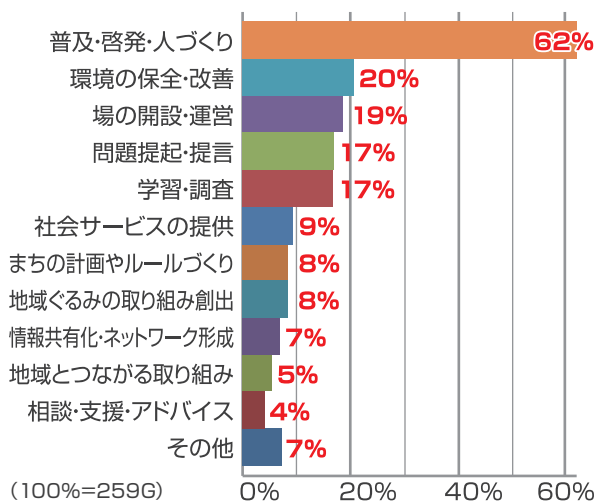
- 「みずやみどり等の学習・保全・活用」、「子育て、子どもの居場所づくり」が最多で、次いで「文化・芸術系・メディア・情報発信」「地域の拠点づくり」「まちづくり活動支援や交流ネットワーク形成」「地区まちづくり及びまちの発見」が多い
- 当初は「まちづくり活動支援や交流ネットワーク形成」が3割超と最多だったが以降1割以下となり、「住まいづくり」も当初1割が最近は0
- 「子育て、子どもの居場所づくり」は'97年から急増して15%以上に
- 「文化・芸術系・メディア・情報発信」は徐々に増加して後半10年で最多
- 全期間で多いのは「みずやみどり等の学習・保全・活用」

活動の内容【図8】

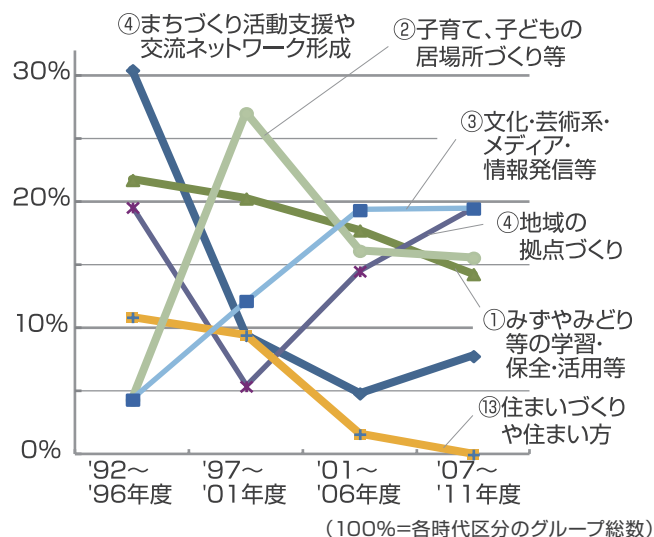
- 「普及・啓発・人づくり」を行っているグループが全体の約6割と最多
- 「環境保全・改善」「場の開設・運営」「問題提起・提言」「学習・調査」も2割程度



【図6】 活動テーマ別助成グループ割合・数



【図8】 活動内容別の助成グループ割合



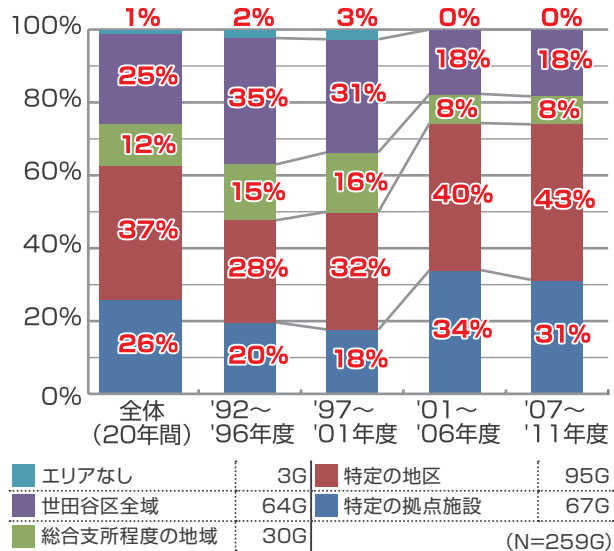
【図7】 助成グループの活動テーマの推移(部分)

4) 助成を受けたのはどんなグループか？

- 特定の「地区」（町丁目や町会等の範囲）や「拠点施設」で活動しているグループが多い
- グループ数は玉川地域が最多、砧・世田谷・北沢がこれに続き、烏山が最少
- メンバー数は6～10人が最も多く、主婦やリタイヤ層が中心のグループが多い

グループの活動範囲【図9】

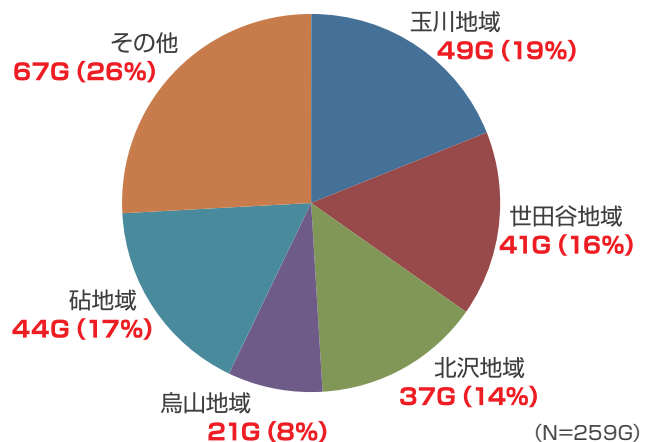
- 「特定の地区（町丁目や町会等の範囲）」が最多で、「特定の拠点施設」「区全域」が続き、「総合支所程度（5地域）」は少ない
- 前半10年は「区全域」を範囲とする活動が多く、「総合支所程度」と合わせて半数近くあったが、後半10年は全体の1/4程度に減少
- 後半10年は、「特定の地区」が4割超で、「特定の拠点施設」も3割以上
- 身近なエリアでの活動が増えつつある



【図9】 助成グループの活動対象エリアの広さ

地域別のグループ数【図10】

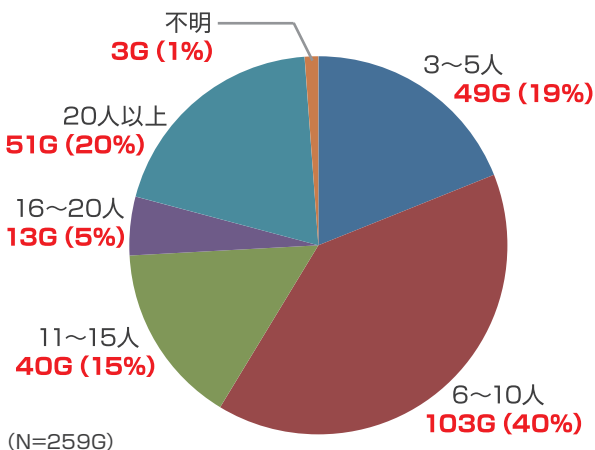
- 「区全域」など地域を越えた活動が含まれる「その他」が全体の1/4以上と最も多い
- 地域別では、玉川地域が最多で、砧・世田谷・北沢も15%前後、烏山が1割未満と最少



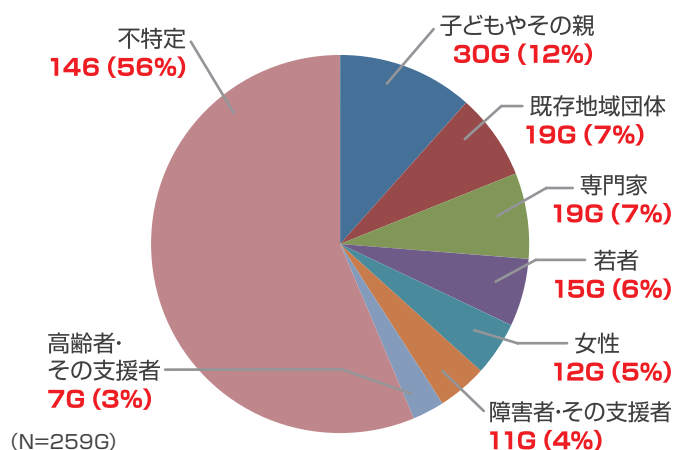
【図10】 グループの活動エリアが含まれる地域

グループの人数や属性【図11・12】

- 「6～10人」のグループが4割と最多、「3～5人」「20人以上」も2割程度
- メンバー属性は大半は「不特定」だが、主婦やリタイヤ層で構成されることが多い
- 「子どもやその親」中心のグループも1割超



【図12】 グループ構成メンバーの属性



【図11】 グループ構成メンバーの人数

5) 助成による活動成果は？ファンドに対する意識は？

- 「地域への活動定着・認知」、「地域の記録・ツール開発」や「他団体とネットワーク構築」が大きな成果
- グループの半数近くは、ファンド助成に対し「役立った」、「感謝している」との意識あり
- 「感謝」や「要望」の両側面で、ファンドへの関心は、年々薄れてきている

助成を受けての活動成果【図13】

○20年間全体では、「計画通りに活動できた」「地域に活動が定着した」「地域の記録を制作できた・ツールを開発できた」「他団体とネットワークの構築」をあげたグループが2～4割と多く、他は1割未満

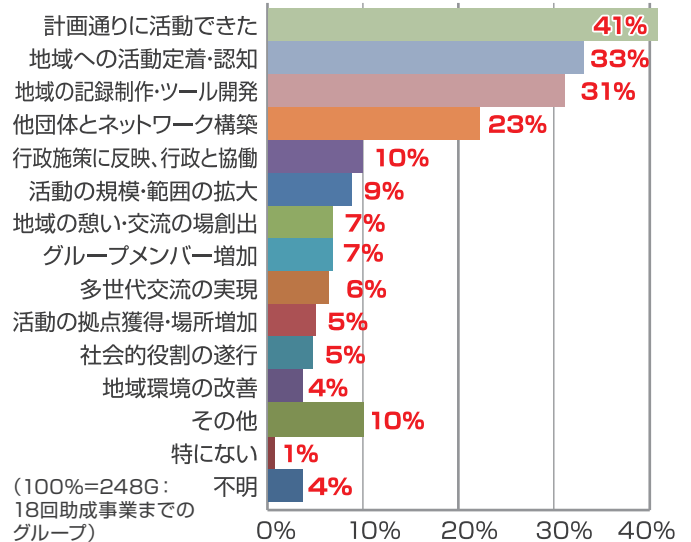
ファンドに対する意識【図14・15】

○グループの半数近くが、ファンドに対し「役立った・感謝している」との意識あり

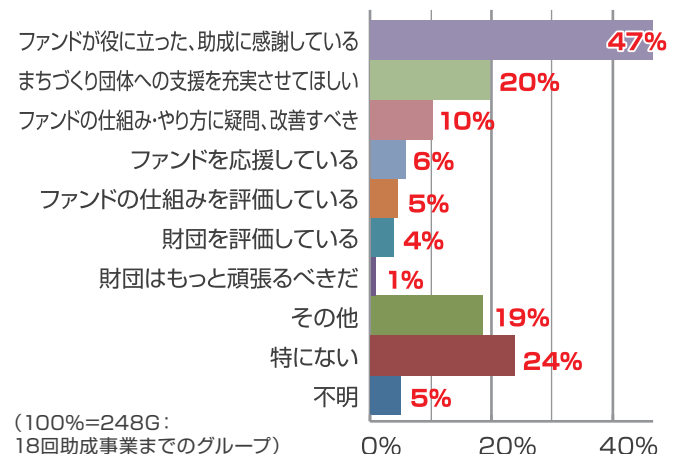
○その具体的内容としては、ファンドのおかげで、「資金的余裕ができた」(22%)、「信用が得られた」(8%)、「活動が安定・定着した」(7%)、「活動が発展した・視野が拡大した」(4%)、「他団体と交流できた」(12%)といった意見がある

○一方、「まちづくり団体への支援の充実」や「ファンドの改善」を求める声もある

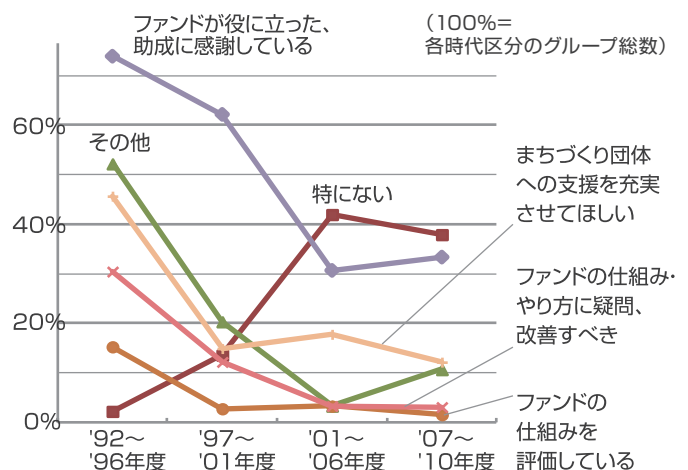
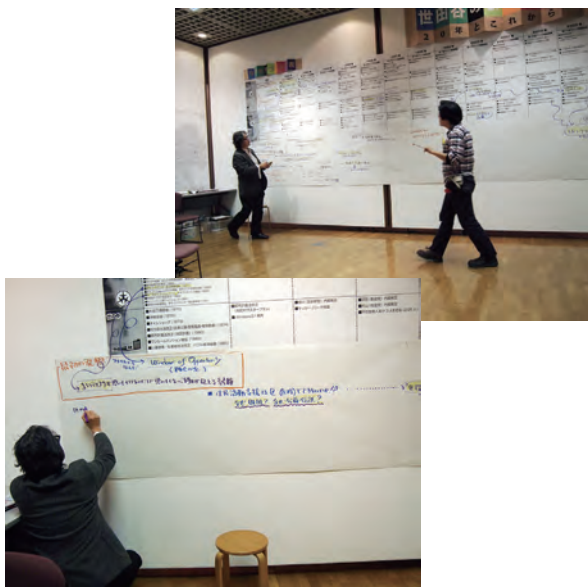
○ファンド・財団への意識の変化を経年的に見ると、「ファンドが役立った・助成に感謝している」「まちづくり団体への支援の充実」「ファンドの改善」「ファンドを評価している」などの意見全てが、年々大幅に減少しつつある一方、後半10年は「(意見は)特にない」というグループが4割近くまで増加している



【図13】 助成による活動の成果 (自己評価・複数回答)



【図14】 助成時のファンドや財団への意見や要望 (複数回答)



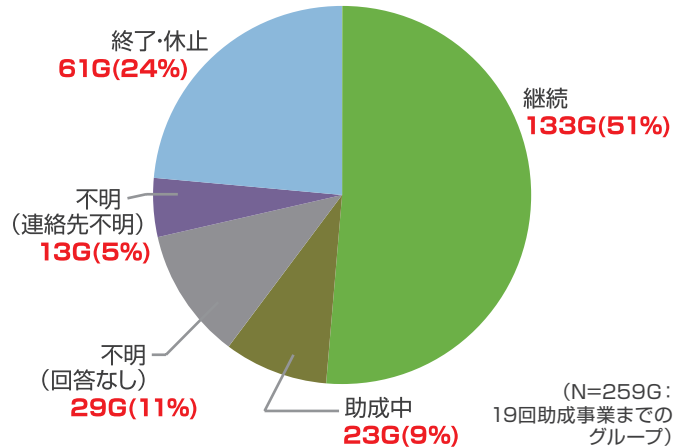
【図15】 助成時のファンドや財団への意見や要望の推移 (部分)

6) ファンド助成後、活動グループはどうしているか？

- ファンド助成を終えた後に活動を継続しているのは5割強の133グループ
- 活動を終了・休止する場合は、ファンド助成後3年以上が半数以上
- 活動を終了・休止する理由は、「目的を達成した」、「中心人物が関われなくなった」から

助成後のグループの活動【図16】

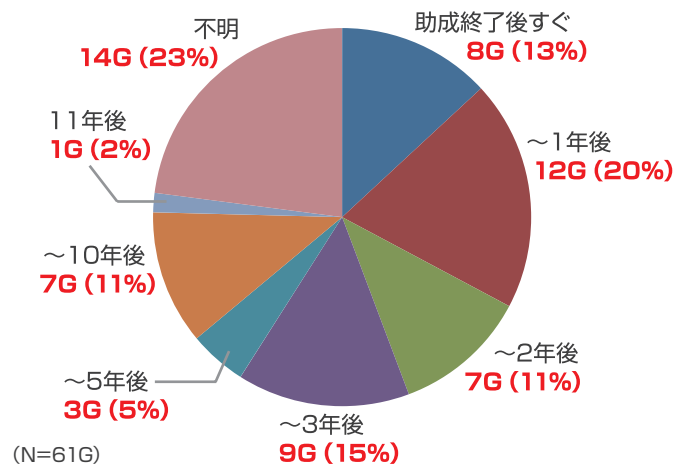
- ファンド助成を終えた後、活動を続けているのは全助成グループの5割を超える133
- 助成中のグループと合わせて、'11年2月現在で156グループ、6割が活動中
- 中には、中心メンバーの逝去後も、新メンバーを加えるなどして活動を続けているところもあり
- 一方、活動の終了・休止が判明したのは61グループ、全体の1/4程度
- 活動継続状況が確認できなかったグループは42あり、そのうちの13はグループへの連絡先が不明



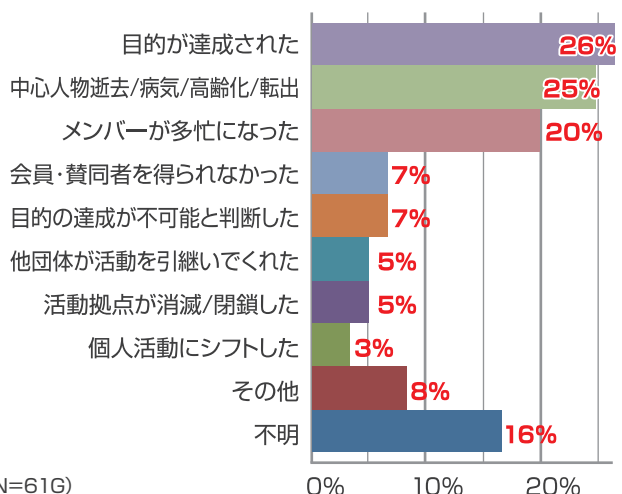
【図16】 ファンド助成グループの活動継続状況 ('11年2月現在)

活動を終了した時期と理由【図17・18】

- 活動を終了したグループの内では、ファンド助成の後～1年以内に活動を終了したグループが最多で2割程度で、ファンド助成終了と同時に活動を止めたグループも1割強あり
- 活動を終了したグループの半数以上が3年以内に止めており、5年以上続けた後、活動を終了したグループも約1割ある
- 活動終了理由の最多は、「目的が達成された」からで、1/4以上が該当し、次いで、「中心人物が亡くなった」り、「病気になるなどした」もほぼ同数
- 「メンバーが多忙になった」も2割程度



【図17】 活動終了グループの活動終了時期



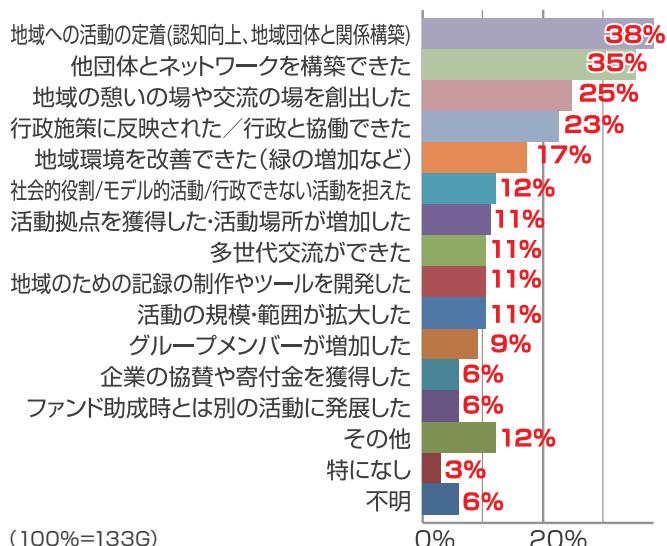
【図18】 活動終了グループの活動を終了した理由

7) 助成後に活動を継続しているグループの成果と課題は？

- 活動を続けてきた成果は、「地域への定着」や「他団体とのネットワーク構築」など
- 活動を継続する上での悩みは、「人」に関わること
- グループは、NPO法人格の取得、区との協働や他の助成制度の活用なども行っている

活動を続けた成果【図19】

- 活動を継続したことにより「地域に活動が定着した」とするグループが4割程度、「他団体とのネットワークを構築できた」も1/3以上あった
- 「地域の憩いの場・交流の場を創出した」「行政施策に反映された／行政と協働できた」と自己評価するグループも各1/4程度
- ファンド助成時の活動の成果として多くのグループがあげていた「地域のための記録制作・ツールの開発」は1割程度にとどまる

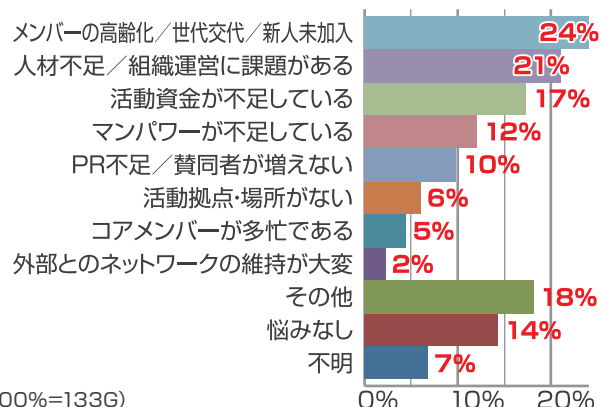


(100%=133G)

【図19】活動継続グループの活動成果(自己評価・複数回答)

継続グループの課題【図20】

- 活動継続上の最大の悩みは「メンバーの高齢化／世代交代できない／新人が入らない」ことで、1/4程度のグループの悩み
- 「人材不足／組織運営に課題がある」というグループも約2割
- 以上に加え、「マンパワーが不足している」「コアメンバーが多忙」など、多くのグループが「人」にかかわる課題を抱える
- 「活動資金不足」を課題にあげたグループは2割弱となり、それほど多くなかった



(100%=133G)

【図20】活動継続グループの課題や悩み(複数回答)

ファンド以外の助成金

- '01年以降4つの主要な助成・補助制度(地域の支えあい活動助成事業、市民活動支援事業、地域の絆推進(再生)事業、子ども基金助成事業)が設けられた
- 4つの何れかを活用したことがあるグループは58(20%程度)で、ファンド助成後に活用したグループが7割、ファンド助成前が2割程度

NPO法人になったグループ

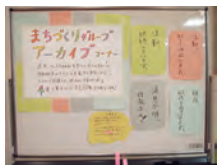
- NPO法人格をもつグループは28あり、少数ながら会社組織で活動するグループも存在する

世田谷区政との関係は？

- 「地域風景資産」('02年～)に登録されている27箇所(全66中)で19グループが活動し、「せたがや生涯現役ネットワーク」には13グループが参加している
- 協定締結に基づく公園管理を行うグループも多数あり
- 世田谷区との協働事業を行っているグループは11('09～'11年の実績、うちNPO法人は8)で、区から事業を委託されているのは9グループ('04、'07～'10年の実績、全てNPO法人)ある

3. 歴代ファンド助成グループ・アーカイブ

ファンド20年間の助成事業で助成を受けたまちづくり活動グループの名前と活動テーマを一挙紹介。活動継続状況(※)も掲載しました。



※世田谷トラストまちづくりが11年度に行った調査をベースに、以降判明した新情報を付加したもの

1992

1	21FFG (21世紀をめざす船橋未来グループ)	13 5	終了・休止
2	ぐるうぶ街	1 16 8	継続
3	楽園クラブ	8 1	継続
4	三・太ワークショップ実行委員会	4 6	終了・休止
5	玉川コミュニティガーデン委員会 (現:NPO法人玉川まちづくりハウス)	1 4 6	継続
6	NPO法人玉川まちづくりハウス	5	継続
7	セカンドハンズ	12 5	不明
8	子どもの環境を考える会	2 4	不明
9	グループコミュニティプラン (GCP)	10 5	不明
10	やさしいまちづくりアクセス・マップ制作委員会	9 7 6	終了・休止
11	太子堂4丁目地区まちづくりを考える会	17 6	継続
12	えき・みち・まち研究会	14	終了・休止
13	さくらの会	8 14	不明

1993

14	14 沢川せせらぎクラブ (子どもと緑を育てる会)	1 5	終了・休止
15	フレンズオブセミナー (FOS)	1	継続
16	グループ・ジュニア	7	不明
17	建設ユニオン街づくり研究グループ	5 19	終了・休止
18	集合住宅デザインハウス	13 5	終了・休止
19	等々力まちづくりハウス	5 4	終了・休止
20	せたがや街並みづくり支援ハウス (現:NPO法人世田谷まちづくり市民評議会)	5	継続
21	の〜んびり世田谷ネットワーク	9	終了・休止
22	せたがやまちづくりフォーラム	5	終了・休止

1994

23	フリースペース"egg (たまご)"	15 4	不明
24	MITI	14 12	不明
25	梅ヶ丘まちづくりハウス (現:冒険遊び場と子育て支援研究会)	5 13	継続
26	NPO法人HANDS世田谷	9	継続

1995

27	区民提案セミナー OB会	19	継続
28	グループ・ド・ネイチャー船橋	1 2	不明
29	多摩川の蘇生を考える会	1	不明

1996

30	豊かな老後を築く会	7	継続
31	世田谷生ゴミリサイクル・ネットワーククラブ	10 8	終了・休止
32	菜そしがや	12	終了・休止
33	NPO法人コミュニティ・ネットワーク・ウェブ	7 5	継続
34	コミュニティケアスペースめぐりハウス「まごの手便」	9	継続
35	A SEED JAPAN [Youth Voice 世田谷]	10 3	終了・休止
36	りすぽろ研究会	1	終了・休止
37	街づくりことばとかたち研究会	4 19	終了・休止
38	烏山みずとみどりの会	1 11	継続
39	せたがやコーポラティブサポート集団 (現:NPO法人SAHS)	5 13 4	継続
40	赤堤生涯学習センター	4 5	継続
41	地域における医療・保健・福祉をともに考える会	18	終了・休止
42	愉快な住まいの会	13 4	継続
43	みずの会	1	終了・休止
44	グループ・カサプランカ	8 7	終了・休止
45	風の仲間のコンサート実行委員会	3 7	終了・休止
46	せたがや界隈研究会	12	終了・休止

1997

47	烏山プレーパークをつくる会 (現:NPO法人プレーパークせたがや)	2 1	継続
48	日本てまりの会本部	3	継続
49	三宿・太子堂のまちづくりを考える会	17 4	終了・休止
50	燦燦サークル	10 7	不明
51	エコロジー住宅市民学校	10 13 5	終了・休止
52	バリアフリーまちづくりハウス	9 7	終了・休止
53	せたがやサポートクラブ	2	終了・休止
54	水と緑のみち	1	不明
55	生きる場作りの会 (現:株式会社楽多)	9 4	継続
56	瀬田フォーラムの会	6 13 3	継続
57	烏山「心をつなぐ」音楽会	3	継続
58	グループ楽々	7	終了・休止
59	東深沢まちづくりの会	6	終了・休止

1998

60	すびなっくらぶ	2	不明
61	三宿の緑を守る会	1 4	継続
62	グループ「世田谷の職人」	3 13	終了・休止
63	世田谷にコレクティブハウスを実現する会	13 19	継続
64	世田谷まちづくりフォーラム	13 5	終了・休止
65	赤とんぼコア (世田谷インターネット研究会)	3 5	不明
66	川の未来探検隊	1	不明
67	あけび会	8 7	終了・休止
68	多摩川・リバーシップの会	1 4	継続
69	大原福祉作業所	8 9	終了・休止
70	演劇文化促進の会	3	不明
71	烏山児童館の移転問題を考える会	2	終了・休止
72	NPO法人土とみどりをを守る会	1 6	継続
73	NPO法人芦花公園園友の丘友の会	8 1	継続
74	園むすび'99	6 2 1	終了・休止
75	世田谷移動サービス協議会	9 7	継続

1999

76	ワンワン会議	19	終了・休止
77	九品仏会話団	3 6	継続
78	駒沢おつきさまの会	2	不明
79	NPO法人せたがや街並み保存再生の会	11	継続
80	せたがやグリーンマップ	1 6	継続
81	NPO法人ハイブリッドパークシティフォーラム	10	継続
82	ママチャリねっと (現:NPO法人せたがや子育てネット)	2	継続
83	おはなしランド	3 2	継続
84	ふたごまちづくりハウス	5	終了・休止
85	ぐるうぶMs.	1	不明
86	成城大学ボランティア部	9 6	継続
87	世田谷親子体操連盟	18	継続
88	砦・多摩川あそび村	2 1 5	継続
89	世田谷子育てマップの会	2	終了・休止

2000

90	子育てひろば ありんこパワー	2 15	継続
91	グループ いきいき住みたい	9 7	終了・休止
92	自主保育 駒沢おひさま会	2	継続
93	成城地域フォーラム	14	終了・休止
94	パブリックファンドプロジェクト (現:株式会社世田谷社)	5	継続
95	NPO法人子ども劇場せたがや	2 6	継続
96	野沢、上馬、下馬、三軒茶屋 緑の市民ネットワーク	8 1	継続
97	ひこばえ連絡会 (現:NPO法人せたがや福祉サポートセンター)	7 5	継続
98	鎌田の町を次代に残そう会	6	終了・休止
99	NPO法人みんなの森の会	1 2	継続
100	世田谷アドベンチャークラブ	2	継続
101	喜多見ボンボコ会議	14 6	継続
102	アザレア	8	不明
103	松原みどりの会	10	継続
104	若林楽市楽運運営委員会 (現:NPO法人キディ文化スポーツ振興会)	12 15	継続
105	プロジェクトRe	10	不明
106	あかげらの会	16	継続
107	ビューティフル・シニア・ライフ研究会	13 7	終了・休止
108	緑の風	8	継続
109	風のウオッチング	10	継続
110	ばる・こどもえくらぶ	10 2	継続

2001

111	みんなでやろう会	13	不明
112	おはなしサークル ティンク	2	終了・休止
113	せたがや郷土史研究会	6 11	継続
114	ふらっとサロンamigo (現:子育て支援グループamigo)	2	継続
115	グループ「けやき」	8	終了・休止
116	おもちゃの診療所 ぐるんぱ	10 2	継続
117	世田谷区立立山小学校「あったらいいな、こんな学校」の会	1 2	継続
118	瀬田の道路環境を考える会	14	終了・休止
119	代沢せせらぎ公園協議会	1	終了・休止
120	アインシュタインプロジェクト世田谷	3 10	継続

2002

121	レッツゴー太鼓	3	継続
122	「せたがや里山づくり」ジュニア隊	1 15	終了・休止
123	世田谷福老クラブ	7	終了・休止
124	子育て支援ピア	2 12	終了・休止
125	小径の会	8	継続
126	北中広場準備会 (現:北中広場)	4	継続
127	NPO法人野沢3丁目遊び場づくりの会	4 2	継続
128	人の泉・オーブンスペース"Be!"	10	継続
129	地域通貨・セタガヤプロジェクト	10 5	継続
130	跡地周辺まちづくり提案住民グループ	6	継続

2003

131	設計局チョリス	3	終了・休止
-----	---------	---	-------

4. 若者ノカタリバ 「俺の、私のやっていることってまちづくり?!」

「今の若い人が何を考えているのか知りたい」という声から始まった企画。世田谷、国立、高円寺などで活動している5人の若者に、どんなことを考え、何をめざしているかを語ってもらいました。



進行役:

小原美穂さん

(博報堂生活総合研究所 上席研究員)

「こちらセタガヤ暮らし研究所」(*)の活動を通して区内でコミュニティカフェなどを開催。現在はファンド運営委員として世田谷のまちづくりに貢献している。



ゲストスピーカー:

上原実彩子さん

(こちらセタガヤ暮らし研究所 研究員・こちカフェ隊代表)

学生時代にこちらセタガヤ暮らし研究所の活動に参加。震災をきっかけに当時の仲間と活動を再開。



ゲストスピーカー:

野下健さん

(NPO法人野沢3丁目遊び場づくりの会 理事・プレーリーダー)

子どもたちの自由な遊び場「のぞわテットーひろば」のプレーリーダーとして活躍。



ゲストスピーカー:

菱沼勇介さん

(株式会社エマリコにたち代表取締役)

大学時代の研究を活かし、国立市で都市農業の活性化をめざした地場野菜の販売を展開中。



ゲストスピーカー:

宮内孝輔さん

(Rosy Future Products株式会社 代表取締役)

世田谷でシェアハウスや飲食店を営む。現在は、京都に拠点を移して展開中。



ゲストスピーカー:

松本哉さん

(リサイクルショップ・素人の乱5号 店主)

高円寺でリサイクルショップを営む中、商店街活性化や、地域ネットワークづくりにも貢献。

※世田谷区都市整備公社(世田谷トラストまちづくりの前身)主催のまちづくり啓発講座

「移動する人」と「定住する人」ー どこで「モバイル化」を感じていますか？

宮内 シェアハウスだと家具は備え付け、スーツケース1個で移動ができます。特に3.11以降、身一つで**移動できるのが良いという価値観**が出てきているように思います。

松本 確かに震災後、リサイクルショップにモノを売る人が増えましたね。みんな、**身軽**になりたいがっています。同じ所にいる価値が薄らいでいるのかも知れませんね。

野下 子育てのことで土地から**離れられない人も**いるし、踏ん切って離れた人もいます。

菱沼 農業をやっていると、なかなか動けないかな。

上原 インターネットがあるので、**遠く離れてもつながれる**、という感じはあります。

自分たちだけがいいではダメ、まわりもよくなないとー「移動する人」も「定住する人」も、どちらも地域にいきなりなりましたか？

小原 モバイル化してても地域とも関係をもっている感じもありますが、縁もゆかりもない土地に「よそもの」が入るときの壁はないですか？

菱沼 よそ者が入らないと、まちづくりは進まないと思

います。**土地の人の受入があると、よそ者は自由に活動**できますよね。学生の時は、「よそ者」というより「若者」として生意気なことを言ったこともありましたが、今は「若者」を《武器》にして、「助けてください!!」と頭下げています。年取ったらどうしようかと思っていますけれど。

野下 「のざわテットーひろば」が怪しい施設じゃないと、地域にわかってもらうまで5年かかりました。お餅ついたら持っていく等の「**仲良くなりたい意志表明**」をしたり、まちづくりファンド助成を受けることで「**公的な活動**」だとわかってもらったり。

松本 飲み会は重要。呼ばれたら必ず行って「お酌」。そうするうちに、打ち解けてきました。今では、商店会の副会長ですよ。**自分のやりたいことだけやっていますはダメ**ですね。

野下 そうそう。子どもはいろんな人に関わって育っていくもの。だから、ひろばに来た人たちがニコニコしていないとダメだし、そのためにはひろばの周りにいる人たちがニコニコしていないとダメと考え、**自分たちだけじゃない**地域との関係づくりをしてきました。

宮内 シェアハウスができると、不特定多数の若者がやってくるので、当然怪しく思われます。そこで、土壁塗りワークショップをやってご近所に知っていただいたり、夜騒いってしまった人がいればお詫びの手紙をもってまわったり。でも、若者が街にすることで、街を守る力にもなり得ると思っています。自分たちが楽しく生きていただけでなく、**みんなと一緒にやっていきたいんです**。時々失敗もするし、調和していくには時間もかかりますけれど。

多様な人との出会いに価値がある 一めざしていること、教えてください

小原 地域で生きていくなかでめざしていることを教えてください。

松本 店では深夜まで飲み会をすることがありますが、自分がこのまちにいて、よそから来る人が地域につながる場となればいいかと思っています。「場所」と「人」がセットになっているから面白い。**第2のホームタウンのような場所が増えたら、世の中から孤独な人がいなくなる**と思うから。

野下 どうあったら人は幸せになるか、に興味がありません。遊び場をつくったら様々な大人が関わってき



て、大の大人が議論をする場になったんです。自分の子どもも、僕だけでなく、**多様な価値観に触れながら育つ環境づくり**がめざすところです。

菱沼 ごちゃごちゃのまちは面白い。下町風や農地が入り交じっている、**ごちゃごちゃのまち**が許される「都市計画制度」をつくりたいです。

上原 いつリストラがあるかわからない時代なので、会社に人生をかけることができない世代です。**壊れたことが、再びつくられるところに立ち会いたい**。思ったことを、地域で形にしていきたいです。

宮内 モノが溢れて所有に価値がなく、体験そのものが価値になりました。**みんなでシェアして共有**していく、こんな新しい生活をクリエイトしたいです。

進行役からヒトコト ～表明することで広がることも

最初は、まちで活動していることを会社の友達には言わずにいました。活動にあまり興味のない人には呼びかけても受け入れてもらえないと思い込んでいたからです。ある日、ためしに活動していることを表明してみると案外興味をもって来て、活動の現場に遊びに来てくれたり、会社のコミュニティカフェ企画に声を掛けられるなどするようになりました。いろんな思い込みを捨てて、地域で活動していることや感じていることを素直に表明してみることも大切だと思います。(小原)

プログラム3

5. 「ファンドでつくるユートピア?!」を語ろう

「こんな世田谷に暮らしたい!物語」づくりをめざして、ワールド・カフェ形式で語り合いました。



ワールド・カフェの進め方

- 1) 7つのテーブルがあるので最初は好きなテーブルに座ります。お題は「まちづくりを進める上で大切な<キーワード>」。
- 2) 一番話題になったことを提供した人がテーブルに残り、あとは旅に出ます。お題は「世田谷の住民主体のまちづくりが実現してきた気になる事例」。
- 3) また旅人たちが移動します。お題は「今後新たに世田谷のまちに実現したいプロジェクト」。
- 4) 同じく、また旅人たちが移動します。お題は「世田谷まちづくりファンドに期待したい新しいテーマや課題」。
- 5) 最後に、最初のテーブルに戻ります。お題は「こんな世田谷に暮らしたい!物語」

チーム 自由の女神

『「〇〇のせたがやバンク」へ投資と配当を』

【キーワード】

- 地域サスティナビリティ
- 仲間との議論
- 生涯学習



チーム ウルル

『ローカル・ルールをつくらう!』

【キーワード】

- 外で活動見せる化
- ゆるやかにつながる

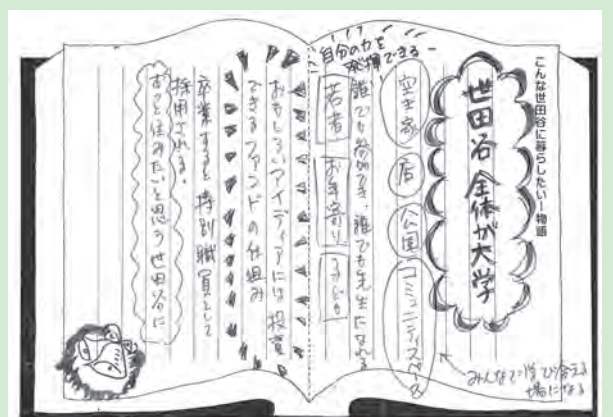


チーム メンフィス

『世田谷全体が大学だといいいね』

【キーワード】

- ゆるさとユーモア
- 学生が力を発揮できる地域づくり
- シェア



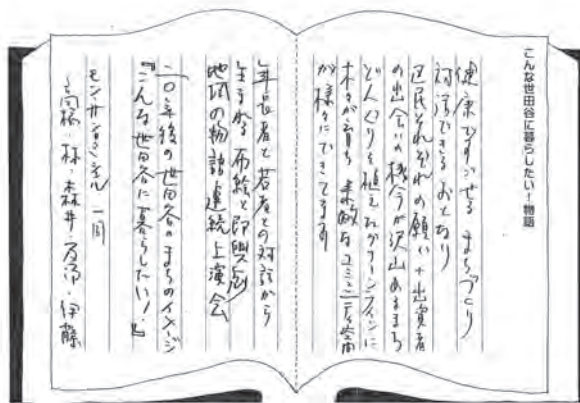
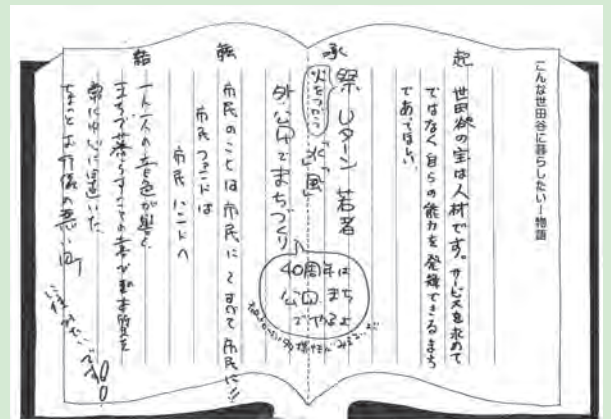


チーム モアイ

『市民ファンドを市民ハンドに』

【キーワード】

- ジャムセッションのようなまちづくり
- 若者を巻き込んでいけるネットワーク



チーム モンサンミシエル

『一人一人のストーリーの交換からまちづくりを』

【キーワード】

- まちから大学へ大学からまちへ
- 私の物語

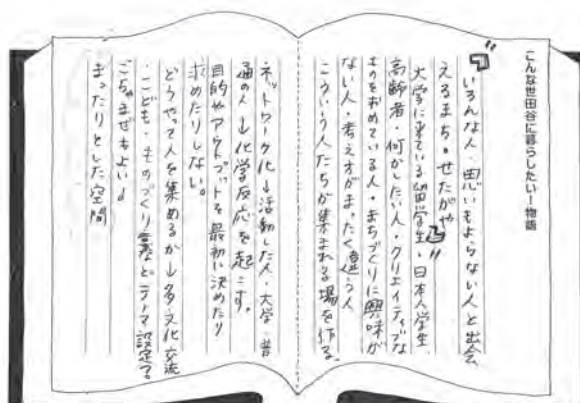
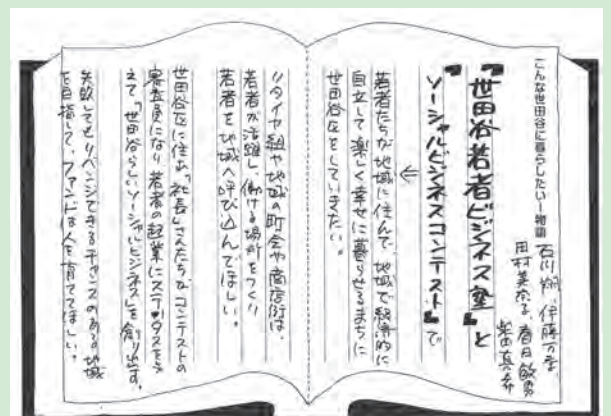


チーム アンコールワット

『若者たちの経済的自立を』

【キーワード】

- あいさつ
- 多様性
- みんなが主役



チーム 巖島神社

『“つながり”の日常化からまちづくり』

【キーワード】

- 人とのつながり
- 多世代との交流



6. みんなで選ぼう!! あったらしいな、こんな市民プロジェクト

20年後の世田谷がどうあって欲しいかをイメージし、そのまちの実現のために必要な市民プロジェクトのアイデアを募集したところ、全40作品が集まりました。

当日は、プレゼンタイムを設けた後、「みんなの税金マネー」「あなたの投資マネー」の2種類を使って投票。ここでは、その中から上位6位(8作品)をご紹介します。



投票用紙代わりの投票シール!



税金マネー



投資マネー

「みんなの税金マネー」「あなたの投資マネー」で投票する試み

1人の投票数は各3枚(計6枚)、1つのプロジェクトにはどちらか1枚しか投票できません。公的資金の「税金マネー」で実現すべきか、市民が自らのお金を提供する「投資マネー」で実現すべきか。みなさん内容をじっくり読んで投票されていました。

これまでの20年、ファンドを通じて市民が実現させてきたまちづくりは多彩で、世田谷というまちの魅力を引き出し、確実に市民力を向上させてきました。今回のアイデアでは、これまでの動きに加え

て、20年後に世田谷が直面しているであろう課題を、行政だけに任せず自分たちが今まで以上に関わり、夢を持って未来社会を創造していこうという気概が伝わってくるものが多かったです。

単に「あったらしいな」だけではなく、実現する時に必要なのは《税金》か、《資金調達》かの「財源」も考えた上での投票は、今後のまちづくり活動への関わりを示唆する試みとなりました。



1位 みんなの学校

※敢闘賞(税金1位) W受賞

笠井恵美さん (税金17 投資7)

学校という場を活用し、年会費5000円で、教える人・教わる人どちらにもなれる。誰でも「学びたい」気持ちを強く持っているが場所がないという悩みがある。現実には身近に廃校になる若林中学校があるので、ここを「みんなの学校」としてコミュニティの中心に。

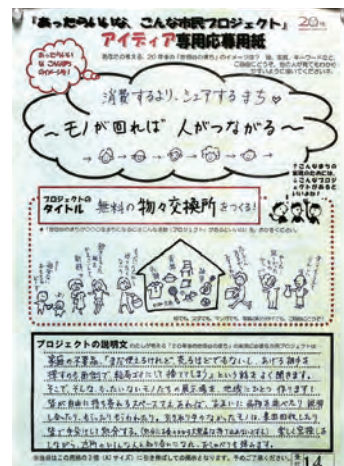


2位 無料の物々交換所をつくる

※敢闘賞(投資1位) W受賞

伊藤万季さん (税金2 投資17)

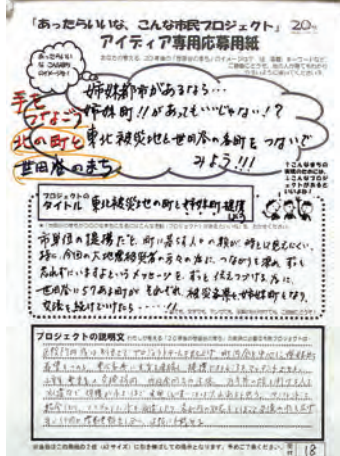
家庭の不用品は、「まだ使えるけれども売るほどでもないし、あげる相手を探すのも面倒で結局ゴミにして捨ててしまう」ということが多い。そこでモノたちの展示場を地域に一つ作り、お互いに品物を並べ説明し合ったりして、楽しく宝探しできるように。



3位 東北支援地の町と 姉妹町提携しよう

武智陽子さん ( 12  4)

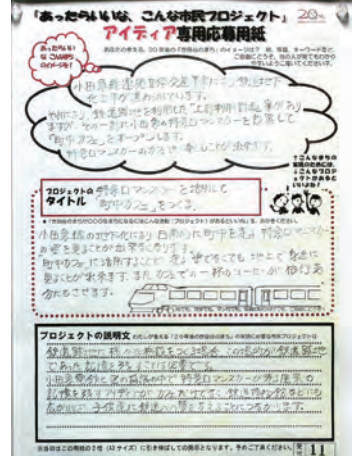
市や区の単位だと、まちに暮らす人々の顔が時として見えにくい。今回の大震災で被災した人たちとのつながりを今後も深め、ずっと忘れないよというメッセージを伝え続けるために区内に57ある町がそれぞれ被災各所と姉妹町となり独自交流ができるといい。



4位 特急ロマンスカーを活用して 「町中カフェ」をつくる

松田宏さん ( 1  14)

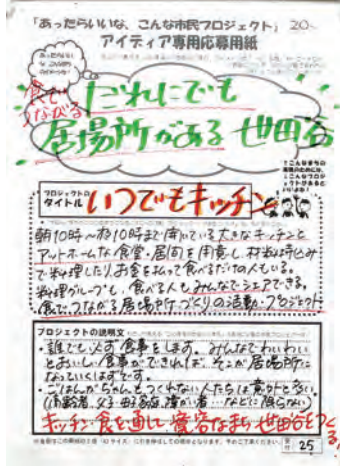
小田急の地下化によって日常的に町中を走る特急ロマンスカーの姿が見られなくなる。「町中カフェ」に車両を活用することでロマンスカーを楽しめ、記憶に残すこともできる。また、一杯の珈琲で旅行気分も味わえ、子どもたちの鉄道への夢を育むことにもつながる。



4位 いつでもキッチン

林美栄子さん ( 3  12)

誰でも必ず食事をする。みんなでわいわいと美味しい食事ができれば、顔の見える関係ができ、そこが居場所になっていく。朝10時～夜の10時まで開いている大きなキッチンと食堂と居間。作る人同士の交流、食べる人もみんなで食事時間もシェアできる。



6位 せたがや農業応援団

関口孝光さん ( 6  8)

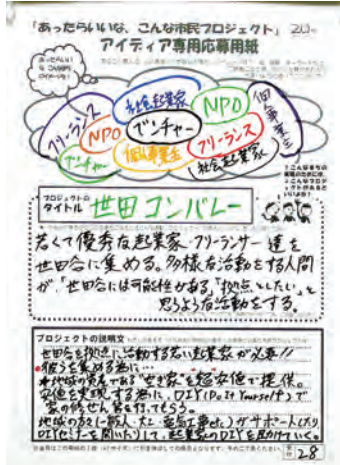
世田谷が“農のあるまち”になるために、市民グループで、農作業の応援、農業の勉強、農家の皆さんと共同作業ができるように。生産緑地法の定める「30年の営農期間」満了まで10年を切った。世田谷農業存続のためにも農家支援、区民の農業理解が必要。



6位 世田コンバレー

石川翔さん ( 4  10)

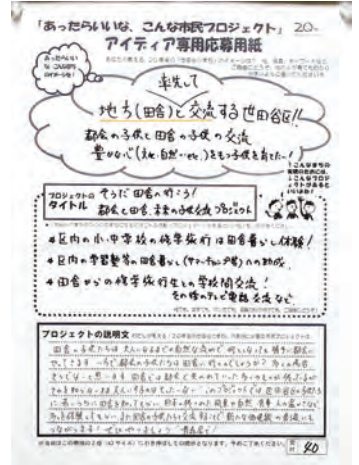
若くて優秀な若者たちに「世田谷には可能性がある」「拠点にしたい」と思われるような整備をする。例えば空き家を超安値で提供。超安値提供のために修繕等は専門家がサポートして若者に任せる。シリコンバレーのように若者の知を集積する環境整備をする。



6位 そうだ!田舎へ行こう ~都会と田舎、未来の子ども交流プロジェクト~

間山創さん ( 8  6)

区内の小・中学校の修学旅行先は田舎暮らし体験。田舎暮らし(サマーキャンプ等)への助成。学校間交流も。都会の子どもは田舎に行く機会が圧倒的に少ない。田舎と交流することで自然、食事、人の温かさなどを知り、新たな価値観の創造にもつながる。



7. まちづくりの活動現場見学ツアー

イベントに先立ち、「まちの力」と題して、3つの場所で「まちづくり活動」を見学するツアーを開催しました。初めての場所は「こんな場所があったのか」と驚き、知っている場所も「《解説付き》で改めて見るとこんなにおも

しろいのか」との発見が多いツアーとなりました。

耕すように、まちを育てましょう。まちづくりは社会資源を掘り起こすこと。現場訪問を重ねて、時間をかけて育みましょう！

1) 梅丘周辺 ～小商いとまちづくり～

11月17日(参加者15名)

従来の商店が閉店していく一方、若者が工夫し個性を活かした店舗が開きつつあります。また、商店を活かしたまちの元気づくりや文化的な活動も、今までと異なるつながりで始まっています。規模は小さいがその良さを活かした新しいまちづくりの風に触れました。

① little tree (リトルツリー)

オープンしたばかりのホットケーキパーラー。オーナーご夫妻は、ドングリの植樹活動や観察会に取り組んでいます。

② 梅ヶ丘THE生エンタ

店舗等を会場に、地元の有志による、音楽、芝居、落語にダンスなど、いろいろ楽しめる、ライブイベントが開催されていました。

③ そらまめハウス*2

羽根木公園の一角にある、プレーパークの中にできた、屋外型の子育て支援拠点。乳幼児親子と多世代の交流の場となっています。

④ monocoto (モノコト)

空き店舗を改装してできた、木工房オフィス。イベントの開催や、工房を開放した人がつながる場づくりにも取り組んでいます。

改めて梅丘を確認したツアーでした。20年でまちは変化しました。でも環境、飲食、手仕事をコラボした店舗が出現し、住民アーティストがライブを開催。アヒルがいる農園や体験農園も元気で、このまちの人間味サイズはきちんと継続されている。それが梅丘の力と再発見できました。



企画・案内：矢郷恵子さん

((有)毎日の生活研究所/冒険遊び場と子育て支援研究会 (KOPA)*1)



2) 玉川田園調布周辺 ～まちづくりハウスが繋ぐ市民活動～

11月21日(参加者15名)

玉川まちづくりハウスが関わり続けてきたまち中の、子育て、高齢者、文化、コミュニティ、街並み保全などの活動現場には、人や想いが重なり合い、それぞれの活動がつながり生まれる笑顔がありました。そんな、玉川田園調布周辺のまちを訪ねました。

ねごじやらし公園

住民参加でつくりあげられた公園。オープン以来地元住民で管理され、様々な地域活動の場になっています。



丸品から玉川田園調布の街並み

玉川まちづくりハウスは、地元のまちづくり協議会の事務局を担い、民有地のみどりを楽しく増やす活動を続けています。



*1 冒険遊び場と子育て支援研究会 (KOPA) 【25】：世田谷まちづくりファンド(第2回/まちづくり活動部門、第3～5回/まちづくりハウス部門) 助成グループ
 *2 そらまめハウス [NPO法人プレーパークせたがや] 【226】：世田谷まちづくりファンド(第17回/まちを元気にする拠点づくり部門) 助成グループ
 *3 NPO法人玉川まちづくりハウス 【6】：活動企画コンペ助成、世田谷まちづくりファンド(第1～2回/まちづくりハウス部門、第18回/特別部門ネット文庫制作) 助成グループ
 *4 読書空間みかも 【210】：世田谷まちづくりファンド(第16～18回/まちづくり活動部門) 助成グループ



そらまめハウス



えんがわinn



世田谷観音



のざわテットーひろば



monocoto



読書空間みかも



little tree



龍雲寺

3) 野沢周辺 ～地域住民による多世代交流～

11月28日 (参加者10名)

野沢三丁目に私有地を使った遊び場「のざわテットーひろば」ができて10年。ひろばを利用する乳幼児と若い親たちだけでなく、古くからの住民との多世代交流を願って、模索しながら様々な地域活動との連携に取り組み、広がりつつある現場を訪ねました。

①大澤山龍雲寺 (野沢龍雲寺)

古くから地域コミュニティの中心的役割を担ってきたお寺。今でも盆踊り大会やお餅つきなどが行われ、地域交流の場になっています。

②のざわテットーひろば*5

今年で10年目を迎える、子どもたちが土にふれのびのび遊べ、親同士の交流も生まれる地域の集い場所です。

③デイ・ホーム中丸

施設内の一室では、地域のお年寄りが集い、楽しみながら交流を図るサロン活動が行われています。

④世田谷山観音寺 (世田谷観音)

敷地内にある、「旧小田原代官屋敷」*6を中心に、朝市をはじめ、様々なイベントが開催される、地域住民の交流の場となっています。

「地域の中で子育てしよう」をモットーに活動している私たちですが、幅広い年代の方たちと交流する機会はあまりありません。この企画に励まされ一足進めることが出来たように思います。



企画・案内：池田栄子さん
(NPO法人野沢3丁目遊び場づくりの会*5)



企画・案内：小西玲子さん
(NPO法人玉川まちづくりハウス*3)

地域の様々な活動を横断的につなげようと活動してきました。「人や想いが重層的に、緩やかに繋がっていること」、それが「まちの力」。そのことを感じていただけたのではないかと思います。自分でもとても楽しかった。ありがとうございました。



えんがわinn

玉川まちづくりハウスの定例理事会も開催される地域のカフェ。みどりに囲まれたホッと一息つける空間になっています。



デイ・ホーム玉川田園調布

住民参加のワークショップを経てできた高齢者施設には、ワークショップの結果できた「地域交流ルーム」があります。



地域共生のいえ「読書空間みかも」*4

私設の図書館？公民館？築80年を超える木造洋風建築の民家を、有志が借りてホッとくつろげるスペースを運営しています。



*5 のざわテットーひろば [NPO法人野沢3丁目遊び場づくりの会]【127】：世田谷まちづくりファンド (第10～12回/まちづくり活動部門、第15回/まちを元気にする拠点づくり部門、第17回まちづくりネット文庫制作部門) 助成グループ

*6 旧小田原代官屋敷 [小田原表情隊]【181】：世田谷まちづくりファンド (第14回/まちを元気にする拠点づくり部門) 助成グループ

[] 内は、まちづくりファンド助成グループ名

[] 内は、「3. 歴代ファンド助成グループ・アーカイブ」(pp16-17) の番号

8. 世田谷の住民まちづくり、 ファンドのこれからにヒトコト

この冊子で紹介したファンド20周年イベントの開催企画に当たっては、ファンドへのかかわりが深く、現在も世田谷で住民まちづくりを実践している方々に、財団からお声掛けをしました。それに応えてくださった方々に最初期の企画段階からご参画いただき、半年の間に幾度もの会議や作業を重ね、また当日スタッフとして奔走してくださったことにより、2日間のイベントが実現しました。

以下は、ご協力いただいたみなさんから、これまでそしてこれからの世田谷のまちづくりや、まちづくりファンドに寄せられたメッセージです。



永い時間をかけた周到な準備を重ねてファンド20周年記念行事は開催されました。20年の歴史の集大成となるすぎれた、そして忘れがたいイベントだったと思います。トラまちの皆さん、そして大勢の市民スタッフの皆さんの熱意と力量にあらためて感心しました。この成果を今後の20年間にどう引き継いで行くのか、今後とも一生懸命考えて行動します。

(まちづくり広場 関口孝光)

私たちはファンドの助成を受けられるという確信があって始められたと思っています。地域の子育て中の人たちと時間と気持ちはあっても、それだけでは前に進みません。公開審査会で運営委員はじめ、見守ってくださる多くの方々への応援を受けることで「がんばろう!」という気持ちが湧き出てきました。これからも一歩を踏み出そうとする人たちを応援して下さい。

(野沢3丁目遊びづくりの会 池田栄子)

当たり前かもしれませんが、このような場に若い人の数がとても少ないと感じます。「自分の住んでいる地域で何か面白いことをしたい。」という若者ももっとたくさんいるはずです。上の世代の方々には、今後もそのような人にとって魅力的な環境を作っていくって頂きたいと思います。

(若者ノカタリバ 企画チーム 石川翔)

記念イベントはファンドを広く社会に知ってもらえる絶好の機会です。助成は活動している人ならいづれ必然的にたどり着きますが、寄付は広報しなければ誰も知ることがありません。持続可能な財政状態のためには、いまこそトラストの基本である一人の一万ポンドより一万人の一万ポンドを実践しましょう。

(トラまち大同窓会 小幡純)

長い歴史の中で私の感じられる部分はほんの一部ですが、世田谷に住み、地域で活動を前向きに取り組むことが出来ること、出来る気持ちにあることも、先駆的な取組みとして、ファンドがあることが理由の大きなひとつだと感じています。これからもご支援や指導、ご縁をよろしく願います。

(トランジション世田谷 茶沢会 矢郷桃)

まちづくりファンドは、これからも、発展させてほしい、なぜならまちづくり人を、ふやすことが、世田谷区に、地域のごとに、感心を持って、住民主体で、参加出来る人を、つくること、はじめの一歩だと思う。ファンド資金の現状を知らせ、いづらかでも、つくりだすことが、必要です。

(風のウォッチング 田中良夫)

20年の最大の遺産はワークショップのノウハウです。心身とアイデアと未来像と共感、共有を有機的にデザインしていくこの手法。今は当たり前のようにワークショップが使われていますが、ファンドで多様な立場の人たちが工夫し創造して育ててきたものです。今は住む、喰う、働くという生活そのものがまちづくりの種になる時代です。ここから育つ新しいまちづくりノウハウが楽しみです。

(矢郷恵子)

12年前、産前産後の母たちの地域の居場所が欲しい!という想いをカタチにするバックアップをいただきました。(子育て支援グループamigoとして) 常設の拠点活動は代がわりし、次の人たちを応援する活動に移行しています。これからも、まちづくり参加のバックアップをぜひよろしくお願いいたします!

(NPO法人せたがや子育てネット代表理事 松田妙子)

歩いてみる、探してみる、聞いてみる、調べてみる、声を出してみる、仲間を集めてみる・・・勇気を出して一歩を踏み出しましょう。色々あると思いますが、全て肥やしにして、楽しんでしまいましょう。そして続けましょう。

(喜多見ボンボコ会議 江崎美枝子)

私はファンドに関わったことで、異分野で活躍する多くの人々と出会い、自分自身の視点を広く大きくしてもらいました。活動を支援することは、そこに関わる人々の成長を支援することだと身をもって感じました。これからもこのファンドが、関わった人たちにとってイキイキ、ワクワクしながら自ら高められる場であってほしいと心から願います。

(NPO法人世田谷ミニキャブ区民の会 荻野陽一)

2009年に防災上必要と考え、町内の道路に愛称を付ける「道の会」を立ち上げ、ファンドのお世話になりました。今回のイベントを通じ「まちづくり」の基本は、多くの人々と知り合い、語り合うことが大切だと感じました。また絆を太くすればするほど減災にもなると思います。今後ともファンドが発展するのを願っています。

(桜上水5丁目 櫻田滋)

「まちづくりって何だろう?」「ほら、不動産会社がやっているアレよ」「違うわよ、住んでる人たちの、たとえば絆をつくるとか・・・」「それにしても、ちょっと偉そうじゃない」「そうよね、わたしたちの勝手よね」なんて、十人十色の考えが出てきそうですが、ま、一步一步進めることですか。

(あかねこうぼう 小家征夫)

「若者ノカタリバ」では、一回り上の世代の方々のお話が聞けました。とても刺激的で発見のある会でした。次は同世代である学生同士で語り合える場、学生と上の世代が語り合える場、そんなカタリバがあればいいなと。ただ一緒にお酒を酌み交わす。そんな軽いものでいいんですけどね。

(山田翔太)

ファンドの歴史は、助成されなかった立場からも検証すべきだ。私は第2回助成事業で「都市計画のオルタナティブを考える市民センターを目指して」との表題で申請したが、行政訴訟を起こしたことを理由に落とされた。「結んでひらいて」に審査の自主性・公開性への注文を寄稿し、最終的に最高裁で勝利した。ファンドの歴史は、民主主義活性化の歴史でなくてはならない。

(世田谷区選挙管理委員 高品育)

もし、「まちづくりファンド」がなかったら、こんなにたくさんの方が《あったらいいな》の思いにトライできなかったし、《テーマや地域の違う人々との出会い》も難しかったでしょう。これからも、「まちづくり」へ一歩踏み出す『しかけ』と、踏み出した人々が知り合う『しくみ』、そしてプラス、このファンドにしかできない『なにか』が必要なのではと感じています。

(20周年冊子編集支援 宮地成子)

むすび

ファンドができてから丁度20年がたちました。この間、多くの方々のまちづくりに活用され、広い支持をいただいていたことに、改めて感謝申し上げます。

20年前は、住民主体のまちづくりと言っても試行錯誤でした。その中でファンドは、活動を掘り起こす先導的役割を果たし、また全国のまちづくり支援のモデルともなってきました。

しかしながら20年の歳月を経た現在、その存在が当たり前となり、周囲の様々な新しい市民活動支援の仕組みの中に埋没しているようにも見えます。今私たちは、ファンドの活かし方を改めて考え直すべき節目を迎えています。

「ファンドがひらいた世田谷のまちづくり 20年とこれから」がテーマであったのに20年間育ててきた芽も伸ばさず、これからの種も蒔けずファンドのまちづくりの先行きが見えてこないまま終わってしまったのは絶好のチャンスを逃したようで本当に残念、残念、残念。

(まちづくり広場 松田宏)

まちづくりファンドは20年の間に確実に世田谷の市民力を育ててきました。それを財産に、次は多様な人や物事が心地よく存在できるまちを市民が主体となってつくりあげるイメージを持っています。これからのファンドは“市民力プラットフォーム”として機能するでしょう。担うべき役割はさらに重要になりますね。

(わいコム・ゆったりカフェ 林美栄子)

永年、まちづくり活動を続けてこられた方々の鮮烈な想いと、世田谷トラストまちづくりの方々の熱意に感銘しました。ファンドそのものについては、未だ未だ認知度が低いというのが現状のようです。池に石を投げる人が増えれば、波紋が無数に重なって池全体を覆う。そんな事を夢見て、沢山の人をまちづくり活動に引き込みたいですね。

(トラストまちづくり大学同窓会 武智陽子)

今回のイベントを通じて、ファンドが育ててきた市民力と層の厚さを感じることができました。ただ、助成グループ数の割に当日参加者も多くなかったこと、ファンドそのものについての深い議論の場が持てなかったことは残念でした。むしろこれをきっかけと考え、このファンドをどうするか、これから多くの関心のある人たちで話ができればと思います。

(株式会社世田谷社 市川徹)



これまでの300近い団体への助成活動で蓄積された、人材、知恵、活動、場などをとり結ぶプラットフォームのつくり方、次なる時代に必要なテーマに先駆的に取り組む発想など、考えるべきことがあります。

ファンドとは、世田谷の将来のまちづくりへの投資の仕組みです。限られた財源を、これから何に投資していくことが大切なのか、みんなで知恵を出し合いましょう。ファンド設立以来の伝統である、「歩みながら考える姿勢」を大切にしながら。

2013年3月

(財)世田谷トラストまちづくり



ファンドがひらいた
世田谷のまちづくり
20年とこれから

発行日：2013年3月31日

発行：  財団法人
世田谷トラストまちづくり

155-0031 世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール 7F

TEL：03-6407-3313